

第三款 特別會計經費補充金	二二、八七三、九一四	第八款 支那駐屯部隊費	一、〇七七、一〇五
第四款 內閣圖書保存費	一〇、二六〇	第九款 一時賜金	四四、八六〇
第五款 大藏省臨時海外通信費	一〇二、四九五	第十款 軍人恩給調查事務費	四四、七七七
第六款 臨時國庫金取扱諸費	三一、三八六	第十一款 自動車獎勵費	一六〇、五八六
第七款 臨時軍事會計檢查諸費	三、五九三	陸軍省所管合計	一三、六六一、五〇〇
第八款 稅關臨時諸費	三七、六七〇	海軍省所管	
第九款 國有財產整理費	三六一、三六二	第一款 軍備補充費	三二、〇〇〇、〇〇〇
第十款 恩給更正諸費	八六、九八八	第二款 艦艇製造費	五六、〇〇〇、〇〇〇
第十一款 四分利付支那債券元利補償	二、六六三、五〇五	第三款 水陸整備費	一三、五五九、六七二
大藏省所管合計	二九、七四六、六三七	第四款 艦船整備費	二、六七四、一四四
陸軍省所管		第五款 軍需品整備費	五二、三、一三五
第一款 營繕費	一、一三一、九七五	第六款 特別會計資本繰入	一、三五〇、〇〇〇
第二款 國防充備費	八、九一二、六二九	第七款 營繕費	一五〇、〇〇〇
第三款 土地建造物整理費	八八〇、二八九	第八款 受託造修費	五五三、〇〇〇
第四款 土地建造物利用費	七八、四〇〇	第九款 拂下圖誌製造費	五一、〇〇〇
第五款 研究費	七〇九、四〇〇	第十款 恩給事務取扱費	一六、一五七
第六款 測量費	四〇〇、〇〇〇	第十一款 一時賜金	一五、一〇〇
第七款 拂下地圖製造費	二二一、四七九	第十二款 大演習費	四、五七〇、三九三

第十三款 平壤鑛業所移管費	八〇〇、〇〇〇	第九款 臨時試驗費	一一、七六四
第十四款 國際水路局費分擔金	六、一九二	第十款 補助費	三五〇、〇〇〇
海軍省所管合計	一一二、二六八、七九三	第十一款 大學及學校圖書館臨時支出金	七六五、七三九
司法部所管		第十二款 災害費	一七四、六一〇
第一款 法律調查費	一八、〇〇〇	文部省所管合計	八、六五三、〇七〇
第二款 陪審法施行準備費	五〇、〇〇〇	農商務省所管	
第三款 營繕費	一、一六一、二八四	第一款 產業獎勵費	一〇、八八一、四三七
司法部所管合計	一、二二九、二八四	第二款 調查及研究費	一、〇七八、一九六
文部省所管		第三款 營繕費	三一六、五九〇
第一款 營繕費	五五九、五五三	第四款 製鐵所擴張費	二、五六一、〇〇〇
第二款 高等諸學校創設及擴張費	五、九三〇、五九七	第五款 家畜傳染病及害蟲豫防費	一九六、四三〇
第三款 臨時調查費	六三、四三一	第六款 治水事業費	九五三、六五八
第四款 維新史料編纂費	六九、六三一	第七款 公有林野官行造林費	一、七八六、〇〇四
第五款 臨時教員養成費	五五四、三六五	第八款 臘豚獸保護費	一九三、七三一
第六款 氣象技術員養成費	二三、八二〇	第九款 漁業免許處分費	五、九六三
第七款 臨時在外研究員費	一三九、五六〇	第十款 臨時整理費	四一、四七七
第八款 臨時外國行諸費	一〇、〇〇〇	第十一款 軍需工業研究獎勵金	一三五、〇〇〇
		第十二款 臨時出資金	五、〇〇〇、〇〇〇

農商務省所管合計	二三、一四九、四八六	第七款 無線電信施設費	五〇〇、〇〇〇
遞信省所管		第八款 電信電話裝置改良研究費	四三、八五四
第一款 補助費	五、四四三、四四二	第九款 船舶試驗渠設置費	六六、三六二
第二款 電信電話營繕費	二八九、二三〇	第十款 船舶滿載吃水線指定費	三六、九九三
第三款 航路標識營繕費	七〇、八七五	第十一款 造船鐵材調查費	五〇、三三九
第四款 營繕費	二五六、〇七一	第十二款 恩給更正諸費	一一九、九二七
第五款 電話交換擴張費	一三、八七〇、〇〇〇	遞信省所管合計	二一、七四七、〇九三
第六款 電話擴張及改良費	一、〇〇〇、〇〇〇	歲出臨時部合計	三八〇、八九七、五二二
		歲出總計	一、四〇九、〇五四、〇八六

乙號

內務省所管		大正十三年度以降支出額	
治水事業費		(款) 治水事業費	二〇六、七二〇、九二七
既定額	四八二、三七八、四二六	改定年額(大正十三年度乃至二十六年度年割額ハ之ヲ略ス)	
追加額	四、〇〇〇、〇〇〇	(說明ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ)	
計	四八六、三七八、四二六	關門海峽改良費	
內		既定額	一〇〇、二〇〇、〇〇〇
大正十二年度迄支出額	二七九、六五七、四九九	追加額	一〇〇、〇〇〇
		計	一〇、二二〇、〇〇〇

大正十二年度迄支出額	七、二三〇、〇〇〇	大正十三年度以降支出額	
大正十三年度以降支出額		(款) 港灣改良費	
(款) 港灣改良費		(項) 神戶港修築費	一五、〇二五、〇〇〇
改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)	二、八九〇、〇〇〇	改定年額(大正十三年度乃至二十二年度年割額ハ之ヲ略ス)	
新潟港修築費		門司港修築費	
既定額	二、二九二、七七〇	既定額	五、二五〇、〇〇〇
追加額	一三〇、〇〇〇	內	
計	二、四二二、七七〇	大正十二年度迄支出額	三、一二五、〇〇〇
內		大正十三年度以降支出額	
大正十二年度迄支出額	一、九三七、六六三	(款) 港灣改良費	
大正十三年度以降支出額		(項) 門司港修築費	二、一二五、〇〇〇
(款) 港灣改良費		改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)	
改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)	四八五、一〇七	長崎港修築費	
神戶港修築費		既定額	二、四九〇、〇〇〇
既定額	二九、八五〇、〇〇〇	追加額	五〇〇、〇〇〇
內		計	二、九九〇、〇〇〇
大正十二年度迄支出額	一四、八二五、〇〇〇	內	
		大正十二年度迄支出額	二、一三〇、〇〇〇
		大正十三年度以降支出額	

(款) 港灣改良費	八六〇,〇〇〇	(項) 清水港修築費	三,六三四,〇〇〇
(項) 長崎港修築費		改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)	
改定年額(大正十四年度及十五年度年割額ハ之ヲ略ス)		境港修築費	一,八〇〇,〇〇〇
下關港修築費	三,六一〇,〇〇〇	既 定 總 額	八〇〇,〇〇〇
既 定 總 額	一,〇〇〇,〇〇〇	追 加 額	一,八八〇,〇〇〇
內		計	四〇〇,〇〇〇
大正十二年度迄支出額	一,〇〇〇,〇〇〇	內	
大正十三年度以降支出額		大正十二年度迄支出額	二,二〇〇,〇〇〇
(款) 港灣改良費	二,六一〇,〇〇〇	大正十三年度以降支出額	八八,七七五
(項) 下關港修築費		既 定 總 額	二,二〇〇,〇〇〇
改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)		追 加 額	二,二八八,七七五
清水港修築費	六,一七七,〇〇〇	計	八七五,〇〇〇
既 定 總 額	三〇〇,〇〇〇	內	
追 加 額	六,四七七,〇〇〇	大正十二年度迄支出額	
計	二,八四三,〇〇〇	大正十三年度以降支出額	
內		(款) 港灣改良費	
大正十二年度迄支出額		(項) 境港修築費	一,四八〇,〇〇〇
大正十三年度以降支出額		改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)	
(款) 港灣改良費		高松港修築費	
既 定 總 額		既 定 總 額	
追 加 額		追 加 額	
計		計	
內		內	

(款) 港灣改良費	一,四一三,七七五	小松島港修築費	三,二〇二,〇〇〇
(項) 高松港修築費		既 定 總 額	一八〇,〇〇〇
改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)		追 加 額	三,三八二,〇〇〇
敦賀港修築費	三,四〇〇,〇〇〇	計	二〇〇,〇〇〇
既 定 總 額	三〇〇,〇〇〇	內	
內		大正十二年度支出額	
大正十二年度迄支出額		大正十三年度以降支出額	
大正十三年度以降支出額		(款) 港灣改良費	
(款) 港灣改良費	三,一〇〇,〇〇〇	(項) 小松島港修築費	三,一八二,〇〇〇
(項) 敦賀港修築費		改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)	
改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)		今治港修築費	
鹽釜港修築費	五,四六三,〇〇〇	既 定 總 額	三,〇〇〇,〇〇〇
既 定 總 額	三,〇六三,〇〇〇	追 加 額	二〇〇,〇〇〇
內		計	二,八〇〇,〇〇〇
大正十二年度迄支出額		內	
大正十三年度以降支出額		大正十二年度迄支出額	
(款) 港灣改良費	二,四〇〇,〇〇〇	大正十三年度以降支出額	
(項) 鹽釜港修築費		(款) 港灣改良費	
改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)		(項) 今治港修築費	二,八〇〇,〇〇〇
鹿兒島港修築費		改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)	

既 定 額	三、〇〇〇、〇〇〇	既 定 額	二九、八六九、四〇七
追 加 額	二二〇、〇〇〇	追 加 額	一三〇、〇〇〇
計 額	三、二二〇、〇〇〇	計 額	二九、九九九、四〇七
内		内	
大正十二年度迄支出額	三〇〇、〇〇〇	大正十二年度迄支出額	一一、二〇九、五五四
大正十三年度以降支出額		大正十三年度以降支出額	
(款) 港灣改良費		(款) 北海道拓殖費	
(項) 鹿兒島港修築費	二、九二〇、〇〇〇	(項) 治水費	一八、七八九、八五三
改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)		改定年額(大正十三年度乃至二十二年度年割額ハ之ヲ略ス)	
北海道土地改良費		兵庫縣港務部其他廳舎新營費	
既 定 額	一〇、三八四、三二六	既 定 額	八八五、一五〇
追 加 額	七〇、〇〇〇	追 加 額	二四六、一三九
計 額	一〇、四五四、三二六	計 額	一、一三一、二八九
内		内	
大正十二年度迄支出額	四、五七二、九八二	大正十二年度迄支出額	八二〇、六〇五
大正十三年度以降支出額		大正十三年度以降支出額	
(款) 北海道拓殖費		(款) 營繕費	
(項) 土地改良費	五、八八一、三四四	(項) 兵庫縣港務部其他廳舎新營費	三一〇、六八四
改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)		改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)	
北海道治水費			

出雲大社境内擴張整理費	既 定 額	三一九、一〇九	吉野神宮修築並境内整理費	改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)	五〇〇、〇〇〇
	追 加 額	八、七五〇		追 加 額	四八、七五〇
	計 額	三二七、八五九		計 額	五四八、七五〇
内			内		
大正十二年度迄支出額		一三五、〇〇〇	大正十二年度迄支出額		一五五、〇〇〇
大正十三年度以降支出額			大正十三年度以降支出額		
(款) 臨時神社費		一九二、八五九	(款) 臨時神社費		三九三、七五〇
(項) 出雲大社境内擴張整理費			(項) 吉野神宮修築並境内整理費		
改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)			改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)		
住吉神社境内整理費			横濱港修築費		
既 定 額	二五〇、〇〇〇	既 定 額	一三、四五〇、〇〇〇		
追 加 額	七、〇〇〇	追 加 額			
計 額	二五七、〇〇〇	計 額			
内		内			
大正十二年度迄支出額	一〇八、〇〇〇	大正十二年度迄支出額	三、一〇〇、〇〇〇		
大正十三年度以降支出額		大正十三年度以降支出額			
(款) 臨時神社費		減 引	一〇、三五〇、〇〇〇		
(項) 住吉神社境内整理費	一四九、〇〇〇	家計調査費			
		既 定 額	二六四、三〇九		

第二章 議事 第二節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案

大正十二年度支出額	六二、四四九	計	大正十二年度迄支出額	一〇、六六七、八三三
差引		内	大正十三年度以降支出額	一、五九六、六三〇
減少額	二〇一、八六〇	(款) 營繕費		
大藏省所管		(項) 神戶税關陸上設備費		九、〇七一、二〇三
議院建築費		改定年額(大正十三年度乃至二十五年度年割額ハ之ヲ略ス)		
既定總額	二〇、〇〇〇、〇〇〇	門司税關陸上設備費		
追加額	九〇五、三四八	既定總額		五、三九九、四一五
計	二〇、九〇五、三四八	追加額		三七八、五六二
内		計		五、七七七、九七七
大正十二年度迄支出額	六、〇三八、一九二	内		
大正十三年度以降支出額		大正十二年度迄支出額		二、一六七、四四六
(款) 營繕費		大正十三年度以降支出額		
(項) 議院建築費	一四、八六七、一五六	(款) 營繕費		
改定年額(大正十三年度乃至二十二年度年割額ハ之ヲ略ス)		(項) 門司税關陸上設備費		三、六一〇、五三一
神戶税關陸上設備費		改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)		
既定總額	一〇、二七二、二八三	國勢調査費		五、八二三、九二四
追加額	三九五、五五〇	既定總額		

追加額	一〇二、一五六	土地建造物整理費		
計	五、九二六、〇八〇	既定總額		八、六〇二、五二七
内		追加額		一、五八八、九三〇
大正十二年度迄支出額	五、一〇六、五〇七	計		一〇、一九一、四五七
大正十三年度以降支出額		内		
(款) 調査費		大正十二年度迄支出額		六、一一二、二四一
(項) 國勢調査費	八一九、五七三	大正十三年度以降支出額		
改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)		(款) 土地建造物整理費		
陸軍省所管		(項) 土地建造物整理費		四、〇七九、二一六
國防充備費		改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)		
既定總額	八七〇、九五五、八四四	測量費		
追加額	八、五八〇、〇二三	既定總額		二、五〇〇、〇〇〇
計	八七九、五三五、八六七	追加額		五〇、〇〇〇
内		計		二、五五〇、〇〇〇
大正十三年度迄支出額	三三六、九五四、九九六	内		
大正十三年度以降支出額		大正十二年度迄支出額		一、四〇〇、〇〇〇
(款) 國防充備費	五四二、五八〇、八七一	大正十三年度以降支出額		
改定年額(大正十三年度乃至三十年度年割額ハ之ヲ略ス)		(款) 測量費		一、一五〇、〇〇〇

改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)		海軍省所管	軍備補充費	既 定 額	一、四四九、九九〇、〇五九
			追 加 額	一、七、四一七、三九七	
計		内		一、四六七、四〇七、四五六	
			大正十二年度迄支出額	一、三九六、二一三、〇三一	
			大正十三年度以降支出額	七一、一九四、四二五	
(款) 軍備補充費			改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)	七一、一九四、四二五	
			補助艦艇製造費	既 定 額	三六八、八六九、八九二
			追 加 額	七、五八二、六〇三	
計		内		三七六、四五二、四九五	
			大正十二年度支出額	四六、五九二、八九〇	
			大正十三年度以降支出額	一、九三三、八七三	
(款) 艦艇製造費			改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)	三二九、八五九、六〇五	
			水陸整備費	既 定 額	二三一、九八一、六八九
			追 加 額	六、六〇二、五〇〇	
計		内		二三八、五八四、一八九	
			大正十二年度迄支出額	一八三、四九六、四五三	
			大正十三年度以降支出額	五五、〇八七、七三六	
(款) 水陸整備費			改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)	五五、〇八七、七三六	
			艦船無線電信機改装費	既 定 額	二、六〇〇、〇〇〇
			追 加 額	三七四、〇一三	
計		内		二、九七四、〇一三	

大正十二年度支出額		六五〇、〇〇〇
大正十三年度以降支出額		一、九三三、八七三
(款) 艦船整備費		二、三二四、〇一三
(項) 艦船無線電信機改装費		改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)
		二、三二四、〇一三
艦船改装費		既 定 額
		五〇、〇〇〇、〇〇〇
追 加 額		一、一二九、五五三
計		五一一、二九、五五三
内		
大正十二年度支出額		二、二五九、一〇七
大正十三年度以降支出額		一〇、三八七、七八〇
(款) 艦船整備費		四八、八七〇、四四六
(項) 艦船改装費		改定年額(大正十三年度乃至二十五年度年割額ハ之ヲ略ス)
		四八、八七〇、四四六
艦載飛行機調辦費		既 定 額
		二、〇四〇、九八六
追 加 額		一六九、九五二
計		二、二一〇、九三八
内		
大正十二年度迄支出額		一、九三三、八七三
大正十三年度以降支出額		二七、一、九六一
(款) 軍需品整備費		改定年額(略ス)
		二七、一、九六一
無煙火藥更新費		既 定 額
		一一、二三〇、〇三二
追 加 額		六四六、三九四
計		一一、八七六、四二六
内		
大正十二年度迄支出額		一〇、三八七、七八〇
大正十三年度以降支出額		一、四八八、六四六
(款) 軍需品整備費		改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)
		一、四八八、六四六
無煙火藥更新費		既 定 額
		一、四八八、六四六
追 加 額		二、二一〇、九三八
計		二、二一〇、九三八
大阪刑務所建築費		二、二一〇、九三八

既	定	總	額	一、八〇〇、〇〇〇
追	加	總	額	三二、七二二
計				一、八三一、七二二
内				
				大正十二年度迄支出額
				一、五三六、一五〇
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	大阪刑務所建築費			二九五、五七二
	改定年額(大正十三年度乃至十五年)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	宮崎刑務所建築費			
既	定	總	額	三〇六、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				二五六、〇〇〇
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	宮崎刑務所建築費			五〇、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度及十四年)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	青森刑務所建築費			
既	定	總	額	五九〇、二三一
追	加	總	額	五、〇〇〇
計				五九五、二三一
内				
				大正十二年度迄支出額
				三九〇、二三一
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	青森刑務所建築費			二〇五、〇〇〇
	改定年額(大正十三年乃至十六年)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	札幌控訴院建築費			
既	定	總	額	四二〇、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				一五、〇〇〇
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	札幌控訴院建築費			一一一、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度及十四年)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	十勝刑務所釧路支所建築費			

既	定	總	額	一五〇、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				一〇二、九八一
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	十勝刑務所釧路支所建築費			四七、〇一九
	改定年額(大正十三年度乃至十五年)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	岐阜刑務所建築費			
既	定	總	額	五五〇、〇〇〇
追	加	總	額	七、〇〇〇
計				五五七、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				二〇〇、〇〇〇
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	岐阜刑務所建築費			三五七、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度乃至十七)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	函館刑務所建築費			
既	定	總	額	七四五、〇〇〇
追	加	總	額	一五、〇〇〇
計				七六〇、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				三一〇、〇〇〇
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	函館刑務所建築費			四五〇、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度乃至十八)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	宇都宮刑務所建築費			
既	定	總	額	四〇〇、〇〇〇
追	加	總	額	七、〇〇〇
計				四〇七、〇〇〇
内				
				大正十二年度迄支出額
				一五七、九六九
				大正十三年度以降支出額
(款)	營	繕	費	
(項)	宇都宮刑務所建築費			二四九、〇三一
	改定年額(大正十三年度乃至十六)			年度年割額ハ之ヲ略ス
	佐賀刑務所建築費			

既	定	總	額	三五〇、〇〇〇
追	加	總	額	一〇、〇〇〇
計				三六〇、〇〇〇
内				
				一八二、二〇〇
				一七七、八〇〇
(項)	佐賀刑務所建築費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)			
	京都刑務所建築費			
既	定	總	額	七〇〇、〇〇〇
追	加	總	額	八六、〇〇〇
計				七八六、〇〇〇
内				
				三四〇、〇〇〇
				四四六、〇〇〇
(項)	京都刑務所建築費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)			
既	定	總	額	三〇〇、〇〇〇
追	加	總	額	六〇、〇〇〇
計				三六〇、〇〇〇
内				
				一〇〇、〇〇〇
				二六〇、〇〇〇
(項)	沖繩刑務所建築費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)			
	長崎刑務所片淵支所建築費			
既	定	總	額	八〇、〇〇〇
追	加	總	額	三五、〇〇〇
計				一一五、〇〇〇
内				
				四〇、〇〇〇
				七五、〇〇〇
(項)	長崎刑務所片淵支所建築費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)			

既	定	總	額	八一〇、〇〇〇
追	加	總	額	四〇、〇〇〇
計				八五〇、〇〇〇
内				
				二六〇、〇〇〇
				五九〇、〇〇〇
(項)	刑務所及支所獨居房建築費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)			
文部省所管				
帝國學士院新營費				
既	定	總	額	三六六、三三〇
追	加	總	額	九七、五〇〇
計				四六三、八三〇
内				
				一〇〇、〇〇〇
(項)	帝國學士院新營費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)			
體育研究所新設費				
既	定	總	額	四三六、九〇〇
追	加	總	額	八〇、〇〇〇
計				五一六、九〇〇
内				
				三五六、九〇〇
(項)	體育研究所新設費			
(款)	營繕費			
	大正十二年度以降支出額			
	大正十三年度以降支出額			
	改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)			
高等諸學校創設及擴張費				
既	定	總	額	六八、八一二、四三三
減	少	總	額	九六八、六〇〇
差	引	總	額	六七、八四三、八三三
内				
				三八、三四一、〇八八
				二九、五〇二、七四五
(項)	高等諸學校創設及擴張費			

改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス) 農商務省所管 製鐵所擴張費 既 定 總 額 一〇二、三六〇、四〇一 ^円 内 大正十二年度迄支出額 九三、二〇四、四六六 大正十三年度以降支出額 九、一五五、九三五 (款) 製鐵所擴張費 九、一五五、九三五 改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス) 治水事業費 既 定 總 額 八、三二八、四六八 追 加 額 一八、四二三 計 八、三四六、八九一 内 大正十二年度迄支出額 四、三二四、五六六 大正十三年度以降支出額 四、〇二二、三二五 (款) 治水事業費 四、〇二二、三二五 改定年額(大正十三年度乃至二十三年度年割額ハ之ヲ略ス)		生絲検査所新營費 既 定 總 額 三、八〇〇、〇〇〇 ^円 内 大正十二年度支出額 一、八〇五、四五〇 差 引 額 一、九九四、五五〇 減 少 額 一、九九四、五五〇 絹業試験所新營費 既 定 總 額 九〇〇、〇〇〇 内 大正十二年度支出額 二〇〇、〇〇〇 差 引 額 七〇〇、〇〇〇 減 少 額 七〇〇、〇〇〇 遞信省所管 岡山驛構内鐵道郵便設備費 既 定 總 額 一三九、六三六 追 加 額 一九、〇四六 計 一五八、六八二 内	
--	--	---	--

大正十二年度迄支出額 一一五、七四六 大正十三年度以降支出額 四、三二四、五六六 (款) 營繕費 四、三二四、五六六 (項) 岡山驛構内鐵道郵便設備費 四、三二四、五六六 改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス) 電話交換擴張費 既 定 總 額 三三九、二七〇、一四二 内 大正十二年度迄支出額 一七四、九九〇、〇〇〇 大正十三年度以降支出額 一六四、二八〇、一四二 (款) 電話交換擴張費 一六四、二八〇、一四二 改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス) 電信擴張及改良費 既 定 總 額 七三、八〇〇、〇〇〇 減 少 額 三二、八九〇、〇〇〇 差 引 額 四一、九一〇、〇〇〇 内 大正十二年度迄支出額 三二、九一〇、〇〇〇 大正十三年度以降支出額 八、〇〇〇、〇〇〇		(款) 電信擴張及改良費 九、〇〇〇、〇〇〇 改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス) 無線電信施設費 既 定 總 額 九、〇〇〇、〇〇〇 内 大正十二年度支出額 一、〇〇〇、〇〇〇 大正十三年度以降支出額 八、〇〇〇、〇〇〇 (款) 無線電信施設費 八、〇〇〇、〇〇〇 改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス) 船舶試験渠設置費 既 定 總 額 七七四、五四六 追 加 額 一一八、五三三 計 八九三、〇七九 内 大正十二年度迄支出額 五二三、七六六 大正十三年度以降支出額 三六九、三一三 (款) 船舶試験渠設置費 三六九、三一三 (項) 船舶試験渠設置費 三六九、三一三 改定年額(大正十三年度乃至十八年度年割額ハ之ヲ略ス)	
---	--	---	--

第二章 議事 第二節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案 二十九

東京中央郵便局新營費		大正十二年度迄支出額	
既定	總額	差引	一、二一〇、九六八 ^円
内	四、九五二、七二五 ^円	減少額	三、八四一、七五七

各特別會計豫算

第一條 大正十三年度外務省所管在外國帝國專管居留地、對支文化事業大藏省所管造幣局、印刷局、專賣局、大藏省預金利子、教育基金、國債整理基金、臨時國庫證券收入金、公債金、賠償金、國有財產整理資金、朝鮮總督府、朝鮮醫院及濟生院、臺灣總督府、臺灣官設鐵道用品資金、關東廳、樺太廳、南洋廳、陸軍省所管陸軍造兵廠、千住製絨所、陸軍營繕費補充資金、海軍省所管海軍工廠資金、海軍火藥廠、海軍燃料廠、文部省所管東京帝國大學、京都帝國大學、東北帝國大學、九州帝國大學、北海道帝國大學、官立大學、學校及圖書館、農商務省所管製鐵所、米穀需給調節、遞信省所管簡易生命保險、鐵道省所管帝國鐵道ノ各歲入歲出豫算額及其ノ款項ノ金額ハ別冊甲號歲入歲出豫算ニ據ルヘシ

第二條 別冊乙號所掲ノ費途ハ各其ノ規畫スル所ニ隨ヒ大正十三年度以降ノ繼續費ト爲シ若ハ既定ノ總額年限金額ヲ改定ス

第三條 大正十三年度歲出豫算中別冊丙號所掲ノ費途ハ年度末支出殘額ヲ翌大正十四年度ニ繰

越使用スルコトヲ得

甲號		甲號	
外務省所管		大藏省所	
在外國帝國專管居留地		造幣局	
歲入	收入	歲入	收入
第一款諸	二九、九五六 ^円	第一款造幣局作業	六〇、七三七、四四一
第二款前年度剩餘金繰入	四七三、一五六	歲出	
合	五〇三、一一二	第一款造幣局作業費	二一、七二三、三五四
歲出		第二款豫備金	一、五〇〇
第一款居留地經營費	三〇、一〇〇	合	二一、七二四、八五四
對支文化事業		資金部歲入	
歲入		第一款造幣局資金收入	一二、四八三、九三四
第一款支那償還金收入	三、八一三、一八一	資金部歲出	
第二款運用利殖金收入	四九、〇一九	第一款貨幣交換費	一四、一八一、〇八八
合	三、八六二、二〇〇	印	
歲出		刷	
第一款對支文化事業費	一、四六七、七一一	局	
第二款豫備金			
合	一、四六七、七一一		
第二款豫備金			
合	一、四七二、七一一		
第二款豫備金			
合	五、〇〇〇 ^円		

歲入	第一款印刷局作業收入	九,一三〇,一八〇	第一款一般會計へ繰入	六二,六六三,七七〇
歲出	第一款印刷局作業費	七,七三一,〇六〇	教育基金	
合	第二款豫備金	二〇,〇〇〇	歲入	
	計	七,七五一,〇六〇	第一款教育基金收入	一六,七三二
專賣局			國債整理基金	
歲入	第一款專賣局作業收入	二七二,二三一,〇三一	歲入	
歲出	第一款專賣局作業費	一七三,七〇五,二六四	第一款國債整理基金收入	一,一四〇,九二五,二六四
合	第二款豫備金	二,〇〇〇,〇〇〇	歲出	
	計	一七五,七〇五,二六四	第一款國債整理基金支出	一,一四〇,九二五,二六四
大藏省預金利子			臨時國庫證券收入	
歲入	第一款預金利殖金收入	七〇,七七六,三五一	歲入	
歲出			第一款臨時國庫證券收入	二七,四五三,六九〇
			第二款前年度剩餘金繰入	一,九八二,四三〇
			合	二九,四三六,一二〇
			歲出	
			第一款臨時國庫證券收入	二九,四三六,一二〇

公債金		第一款 國有財產整理資金支出	一,七七七,四一一	
歲入	第一款公債金收入	一一〇,二一一,〇七九	朝鮮總督府	
歲出	第一款公債金支出	一一〇,二一一,〇七九	歲入	
賠償金		第二款 經常部		
歲入	第一款賠償金收入	一,八一五,五七七	第一款租稅	三六,一五九,七七七
歲出	第一款賠償金支出	六八,三五八	第二款印紙收入	九,五七八,一八七
合	第二款豫備金	一,〇〇〇	第三款驛屯賄收入	一,七三八,四六一
	計	六九,三五八	第四款官業及官有財產收入	五三,六六五,八一二
國有財產整理資金			第五款雜收	一,四八一,六〇七
歲入	第一款國有財產整理資金收入	三,〇〇三,三〇〇	經常部合計	一〇二,六二三,八四四
歲出			臨時部	
			第一款官有物拂下代	六,四〇三,六六九
			第二款補充金	一五,九七三,九一四
			第三款一般會計へ受入金	二,七九二,四七九
			第四款事業費資金借入金	一〇,〇〇〇,〇〇〇
			第五款東洋拓殖株式會社補給金償還受入	三〇〇,〇〇〇
			第六款前年度剩餘金繰入	二,七三三,八三七
			臨時部合計	三八,二〇三,八九九
			合計	一四〇,八二七,七四三

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

歲出		經常部	臨時部	合計
第一款	李王家歲費	一、八〇〇、〇〇〇		
第二款	總督府	五、一一二、一二五		
第三款	裁判所及供託局	三、四七三、一四七		
第四款	刑務所	四、一一五、九〇二		
第五款	地方廳	二九、五六九、〇九九		
第六款	地方財務廳	四、二四四、〇〇九		
第七款	學校及圖書館	三、〇九八、七七二		
第八款	警察官講習所	三七一、六五三		
第九款	稅關	一、一〇六、二〇九		
第十款	勸業模範場	五四〇、四七〇		
第十一款	獸疫血清製造所	二六九、〇四五		
第十二款	中央試驗所	二三九、八二〇		
第十三款	水產試驗場	一六三、二八〇		
第十四款	林業試驗場	一四三、三七一		
第十五款	專賣局	一八、九六六、〇〇二		
第十六款	營林廠	二、九七四、五一一		
第十七款	遞信費	一一、八五二、〇七一		
第十八款	感化院	四一、九九七		
第十九款	諸支出金	二七一、一二三		
第二十款	國債整理基金特別會計線入	一三、四四五、〇〇一		
第二十一款	朝鮮醫院及濟生院支出金	一、二三六、七九二		
第二十二款	豫備金	二、五〇〇、〇〇〇		
經常部合計		一〇五、五三四、三九九		
臨時部			二八一、三八三	
第一款	朝鮮部隊費		三、七七三	
第二款	高等土地調查委員會費		六六、三七〇	
第三款	林野調查委員會費		一、三三二、九二六	
第四款	調查及試驗費		九、〇三九、七一八	
第五款	補助費		四、六四八、四〇八	
第六款	營繕費		二、八六四、八七四	
第七款	土木費		一〇、〇〇〇、〇〇〇	
第八款	鐵道建設及改良費		三三四、八四二	
第九款	鹽田擴張費		四〇、八二五	
第十款	砂防事業費		一六〇、〇〇〇	
第十一款	軍用地買收費		一〇三、三七一	
第十二款	地籍整理及國有地處分費			

歲入		經常部	臨時部	合計
第十三款	教員學生海外派遣費	一五九、四〇〇		
第十四款	臨時朝鮮語獎勵費	一一〇、〇〇〇		
第十五款	耕地改良及擴張費	三、二八三、二三四		
第十六款	臨時特別手當	六二五、八〇〇		
第十七款	對在外鮮人施設費	九四三、七四七		
第十八款	臨時警防費	二五、四七六		
第十九款	朝鮮史編纂費	四二、六二八		
第二十款	災害費	一、二一六、五六九		
臨時部合計		三五、二九三、三四四		
合計		一四〇、八二七、七四三		
朝鮮醫院及濟生院				
經常部				
第一款	朝鮮醫院及濟生院	三、〇二〇、九八〇		
臨時部				
第一款	寄付金	一、二一、三〇九		
第二款	特別資金利子受入	一〇、三〇〇		
臨時部合計		二一、六〇九		
歲入合計		三、〇四三、五八九		
歲出		經常部	臨時部	合計
第一款	朝鮮醫院及濟生院	三、〇〇八、九六九		
第二款	豫備金	一六、五〇〇		
經常部合計		三、〇二五、四六九		
臨時部			一八、一二〇	
第一款	臨時特別手當		一八、一二〇	
合計		三、〇四三、五八九		
資金部歲入				
第一款	維持資金收入	一九、〇五〇		
資金部歲出				
第一款	維持資金支出	三六、五五〇		
臺灣總督府				
歲入				
經常部				
第一款	租稅	一五、〇四九、七〇九		
第二款	官業及官有財產收入	六五、〇六五、七三七		

第二章 議事 第二節 議案

第二款 議案 / 討議

第一項 豫算案

第三款印紙收入	二,三五四,七三〇	第七款監獄	一,〇一六,四三八
第四款雜收	六五九,七六七	第八款警察官及司獄官練習所	二二七,七六六
經常部合計	八三,一二九,九四三	第九款醫院	一,〇八七,七六三
臨時部		第十款中央研究所	九三六,九九二
第一款官有物拂下代	七〇八,五〇九	第十一款教育費	二,五九九,二三五
第二款雜收	二三	第十二款社會事業費	一四一,八一〇
第三款一般會計受入金	四四五,一九五	第十三款遞信費	三,七七二,〇四八
第四款事業費資金借入金	三,二〇〇,〇〇〇	第十四款鐵道作業費	九,六八三,〇二五
第五款前年度剩餘金繰入金	三,八五八,〇五五	第十五款專賣局	二七,四九六,九五八
臨時部合計	八,二一一,七八二	第十六款森林作業費	三,〇三五,八二五
合計	九一,三四一,七二五	第十七款國債整理基金特別會計繰入	四,二四七,三六三
歲出		第十八款諸支出金	一,六四七,〇八九
經常部		第十九款豫備金	二,〇〇〇,〇〇〇
第一款臺灣神社費	二五,〇〇〇	經常部合計	七六,三三八,八一二
第二款總督府	二,五三六,七七四	臨時部	
第三款地方廳	一四,二七七,九八五	第一款事業費	八,四三一,八一五
第四款稅	五〇八,二六五	第二款勸業費	一,二四一,五二二
第五款港務	八五,五二六	第三款補助費	四,八七三,〇七六
第六款法院	一,〇一二,九五〇	第四款酒專賣創業費	四五六,五〇〇

臨時部合計	一五,〇〇二,九一三	第二款補充金	四,〇〇〇,〇〇〇
合計	九一,三四一,七二五	第三款事業費資金借入金	八〇〇,〇〇〇
臺灣官設鐵道用品資金		第四款前年度剩餘金繰入金	九九二,八八九
歲入		臨時部合計	六,四九九,三一四
第一款鐵道用品收入	三,〇〇〇,〇〇〇	歲出	一六,七一,〇九八
歲出		經常部	
第一款鐵道用品費	三,〇〇〇,〇〇〇	第一款關東廳	一,六八六,七二三
關東廳		第二款裁判及監獄費	五二二,八三一
歲入		第三款警察費	三,八二五,七〇七
經常部		第四款教育費	一,八九九,二九八
第一款租稅	三,一九四,七五六	第五款遞信費	四,二七〇,四七〇
第二款官業及官有財產收入	六,四一二,九七五	第六款海務局	一七四,八八一
第三款印紙收入	四一三,五五六	第七款醫院	四五〇,一五六
第四款雜收	一九〇,四九七	第八款傳染病豫防費	三五,一五九
經常部合計	一〇,二一一,七八四	第九款國債整理基金特別會計繰入	八一,二六二
臨時部		第十款諸支出金	五〇,〇〇七
第一款官有物拂下代	七〇六,四二五	第十一款豫備金	二五〇,〇〇〇
經常部合計	七〇六,四二五	經常部合計	一三,二三六,四九四

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

第一款 陸軍造兵廠作業費	三四、三一七、六三四	海軍省所管	
第二款 豫備金	二〇、〇四五、〇〇〇	海軍工廠資金	
合 計	五四、三六二、六三四	歲入	
千住製絨所		第一款 材料物品收入	三八、九三一、九五九
歲入		歲出	
第一款 千住製絨所作業收入	七、〇九四、九〇二	第一款 材料物品費	三九、一四七、八七四
歲出		海軍火藥廠	
第一款 千住製絨所作業費	五、五五九、一一一	歲入	
第二款 豫備金	一、五三三、〇〇〇	第一款 海軍火藥廠作業收入	三、八一三、三七八
合 計	七、〇九二、一一一	歲出	
陸軍營繕費補充資金		第一款 海軍火藥廠作業費	三、七九九、四二三
歲入		第二款 諸支出金	三、九五五
第一款 陸軍營繕費補充資金收入	四八三、〇六五	第三款 豫備金	一〇、〇〇〇
第二款 前年度剩餘金繰入	四〇四、八一〇	合 計	三、八一三、三七八
合 計	八八七、八七五	海軍燃料廠	
歲出		歲入	
第一款 一般會計へ繰入	八八七、八七五		

第一款 海軍燃料廠作業收入	二五、七二四、五四七	經常部	
歲出		第一款 東京帝國大學	五、六五〇、二五五
第一款 海軍燃料廠作業費	二四、七九〇、二三六	第二款 航空研究費	四九三、四四〇
第二款 諸支出金	三一、四五〇	第三款 諸支出金	九、五二七
第三款 豫備金	一〇、〇〇〇	第四款 豫備金	九三、〇〇〇
合 計	二四、八三一、六八六	經常部 合 計	六、二四六、二二二
文部省所管		臨時部	
東京帝國大學		第一款 營繕費	六五三、三四八
歲入		第二款 設備費	九二、〇三〇
經常部		第三款 臨時支出金	七、〇〇一
第一款 東京帝國大學	六、四六八、八三一	第四款 臨時施設費	四三、八四〇
臨時部		第五款 災害費	一七六、三九〇
第一款 臨時政府支出金受入	二〇五、二七六	合 計	九七二、六〇九
第二款 演習林臨時收入	七七、一一〇	資金部	
第三款 資 金 繰 入	四六七、六一四	第一款 維持資金收入	八〇、〇〇〇
臨時部 合 計	七五〇、〇〇〇	第二款 特別資金收入	三〇〇、〇〇〇
合 計	七、二一八、八三一	合 計	二八〇、〇〇〇
歲出		資金部 歲出	

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

第一款維持資金支出	五二七、六一四	第一款營業繕費	二二二、三三〇
第二款特別資金支出	二〇〇、〇〇〇	第二款臨時授業費	七、一五五
合 計	七二七、六一四	合 計	二三九、四八五
京都帝國大學			
合 計	三、二六五、三七九	合 計	三、五〇四、八六四
歲入			
經常部		資金部歲入	
第一款京都帝國大學	七、一五五	第一款維持資金收入	二八、〇〇〇
第二款臨時政府支出金受入	二二二、三三〇	第二款特別資金收入	七〇、〇三五
合 計	二三九、四八五	合 計	九八、〇三五
歲出			
經常部		臨時部	
第一款京都帝國大學	三、二二九、三七九	第一款臨時維持資金支出	二二二、三三〇
第二款豫備金	三六、〇〇〇	第二款特別資金支出	九〇、〇〇〇
合 計	三、二六五、三七九	合 計	三二二、三三〇
臨時部			
第一款臨時政府支出金受入	一六六、八八五		
合 計	一六六、八八五		

第一款維持資金支出	二一、〇〇〇	第一款維持資金支出	二一、〇〇〇
第二款用途指定寄付金	二五、一二〇	第二款特別資金支出	五、〇〇〇
合 計	二一三、〇〇五	合 計	二六、〇〇〇
歲出			
經常部		臨時部	
第一款東北帝國大學	二、〇六一、五六三	第一款九州帝國大學	二、三一七、七八五
第二款營業繕費	一五一、五〇〇	第二款臨時政府支出金受入	一四八、〇〇〇
第三款臨時授業費	二九、五〇〇	第三款資金繰入	四二、〇〇〇
第四款用途指定費	六、八八五	第三款農學部創立費寄付金	六〇、〇〇〇
合 計	二、二七四、五六八	合 計	二五〇、〇〇〇
歲入			
經常部		臨時部	
第一款東北帝國大學	二、〇六一、五六三	第一款九州帝國大學	二、三六七、七八五
第二款營業繕費	一五一、五〇〇	第二款臨時政府支出金受入	一四八、〇〇〇
第三款臨時授業費	二九、五〇〇	第三款資金繰入	四二、〇〇〇
第四款用途指定費	六、八八五	第三款農學部創立費寄付金	六〇、〇〇〇
合 計	二、二七四、五六八	合 計	二五〇、〇〇〇
資金部歲入			
第一款維持資金收入	五五、〇〇〇	第一款九州帝國大學	二、三一七、七八五
第二款特別資金收入	五、〇〇〇	第二款臨時政府支出金受入	一四八、〇〇〇
合 計	六〇、〇〇〇	第三款資金繰入	四二、〇〇〇
資金部歲出			
第一款營業繕費	一八二、二〇〇		
合 計	一八二、二〇〇		

第二章 議事 第二節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案 四十三

第二款 農學部創立費	六〇,〇〇〇	第二款 資金繰入	一〇一,〇九七
第三款 設備費	七,八〇〇	臨時部合計	二一一,七〇三
臨時部合計	二五〇,〇〇〇	合計	二,三六四,九〇六
合計	二,五六七,七八五	歲出	
資金部歳入		經常部	
第一款 維持資金收入	四六,六八〇	第一款 北海道帝國大學	二,一五三,二〇三
第二款 特別資金收入	五,三九三	臨時部	
合計	五二,〇七三	第一款 營繕費	五〇,〇〇〇
資金部歳出		第二款 醫學部創立費	一六一,七〇三
第一款 維持資金支出	四二,〇〇〇	臨時部合計	二一一,七〇三
第二款 特別資金支出	一五,四五〇	合計	二,三六四,九〇六
合計	五七,四五〇	資金部歳入	
北海道帝國大學		第一款 維持資金收入	七,〇〇〇
歲入		第二款 特別資金收入	二〇,五七八
經常部		合計	二七,五七八
第一款 北海道帝國大學	二,一五三,二〇三	資金部歳出	
臨時部		第一款 維持資金支出	五七,七一二
第一款 臨時政府支出金受入	一一〇,六〇六	第二款 特別資金支出	四三,三八五
合計		合計	一〇一,〇九七

官立大學		資金部歳入	
歲入		第一款 維持資金收入	一四一,七六〇
經常部		第二款 特別資金收入	六,五〇二
第一款 官立大學	四,九四五,七〇一	合計	一四八,二六二
臨時部		資金部歳出	
第一款 臨時政府支出金受入	二〇,〇〇〇	第一款 維持資金支出	六八,六〇〇
第二款 資金繰入	六八,六〇〇	第二款 特別資金支出	六,五〇〇
第三款 用途指定寄付金	一五,〇〇〇	合計	七五,一〇〇
臨時部合計	一〇三,六〇〇	學校及圖書館	
合計	五,〇四九,三〇一	歲入	
歲出		經常部	
經常部		第一款 學校及圖書館	一三,四二七,二四四
第一款 官立大學	四,九四五,七〇一	臨時部	
臨時部		第一款 臨時政府支出金受入	一〇七,八一七
第一款 營繕費	八八,六〇〇	第二款 用途指定寄付金	六二,五七五
第二款 用途指定費	一五,〇〇〇	臨時部合計	一七〇,三九二
臨時部合計	一〇三,六〇〇	合計	一三,五九七,六三六
合計	五,〇四九,三〇一	歲出	

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

經常部	第一款 學校及圖書館	一三、四二七、二四四	第一款 製鐵所作業收入	六九、五五五、六六二
臨時部	第一款 設備費	一〇七、八一七	歲出	
	第二款 用途指定費	六二、五七五	第一款 製鐵所作業費	七八、五七二、九八一
臨時部 合計	合計	一七〇、三九二	第二款 豫備金	三〇、〇〇〇
資金部 歲入	合計	一三、五九七、六三六	合計	七八、六〇二、九八一
第一款 維持資金收入		二四〇、〇七九	米穀需給調節	
第二款 特別資金收入		一三、二五九	歲入	
合計		二五三、三三八	第一款 米穀需給調節收入	五三、三〇七、六三五
資金部 歲出			歲出	
第一款 維持資金支出		八二五、六四四	第一款 米穀需給調節費	五三、三〇二、六三五
第二款 特別資金支出		八、九四六	第二款 豫備金	五、〇〇〇
合計		八三四、五九〇	合計	五三、三〇七、六三五
農商務省所管			遞信省所管	
製鐵所			簡易生命保險	
歲入			歲入	
第一款 簡易生命保險收入		四三、八五二、三五九	第一款 簡易生命保險收入	四三、八五二、三五九

帝國鐵道			用品勘定	
歲入			歲入	
第一款 鐵道資金收入	一二六、四五一、〇〇〇		第一款 鐵道用品及工作收入	二二一、一九〇、九六三
歲出			歲出	
第一款 鐵道建設及改良費	一五六、二九七、〇〇〇		第一款 鐵道用品及工作費	二二一、一九〇、九六三
第二款 國債償還金	七、一三八		收益勘定	
合計	一五六、三〇四、一三八		歲入	
鐵道省所管			第一款 鐵道作業收入	五五二、〇〇九、〇七二
帝國鐵道			歲出	
資本勘定			第一款 鐵道作業費	四〇五、〇五八、〇七二
歲入			第二款 補助費	二、五〇〇、〇〇〇
第一款 鐵道資金收入	一二六、四五一、〇〇〇		第三款 豫備金	二〇、〇〇〇、〇〇〇
歲出			合計	四二七、五五八、〇七二
第一款 鐵道建設及改良費	一五六、二九七、〇〇〇			
第二款 國債償還金	七、一三八			
合計	一五六、三〇四、一三八			

乙號	朝鮮總督府	二四〇、三〇一
大藏省所管	發電水力調査費	
	既定總額	

<p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 九三、六六三</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 調査及試験費</p> <p>(項) 發電水力調査費 一四六、六三八</p> <p>改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>(説明ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ)</p> <p>總督府廳舎新營費</p> <p>既 定 總 額 六、三三八、三二三</p> <p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 四、六〇〇、〇〇〇</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 營 繕 費</p> <p>(項) 總督府廳舎新營費 一、七三八、三二三</p> <p>改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>大學新營費</p> <p>總 額</p> <p>(款) 營 繕 費</p> <p>(項) 大學新營費 一、六九九、七二〇</p>	<p>年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>既 定 總 額 五、八一三、八〇四</p> <p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 一、六七〇、〇〇〇</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 營 繕 費</p> <p>(項) 電信電話整備費 四、一四三、八〇四</p> <p>改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>醫院新營費</p> <p>既 定 總 額 七、三二二、一二二</p> <p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 四、六三〇、〇〇〇</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 營 繕 費</p> <p>(項) 醫院新營費 二、六九二、一二二</p> <p>改定年額(大正十三年度及十七年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>道路修築改良費</p> <p>既 定 總 額 三九、一四〇、〇〇〇</p>
--	--

<p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 二二、五四〇、〇〇〇</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 土 木 費</p> <p>(項) 道路修築改良費 一六、六〇〇、〇〇〇</p> <p>改定年額(大正十三年度乃至十九年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>海關工事費</p> <p>既 定 總 額 二八、六六八、〇九三</p> <p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 二二、六一〇、四九五</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 土 木 費</p> <p>(項) 海關工事費 六、〇五七、五九八</p> <p>改定年額(大正十三年度及十四年度及十八年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>應急治水工事費</p> <p>既 定 總 額 八二七、〇〇〇</p> <p>內</p> <p>大正十二年度支出額 四一五、〇〇〇</p> <p>大正十三年度支出額</p>	<p>(款) 土 木 費</p> <p>(項) 應急治水工事費 四一、二〇〇</p> <p>改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>新義州附近河川整理費</p> <p>總 額</p> <p>(款) 土 木 費</p> <p>(項) 新義州附近河川整理費 四五〇、〇〇〇</p> <p>年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>朝鮮鐵道建設及改良費</p> <p>既 定 總 額 三〇二、二七四、三七八</p> <p>內</p> <p>大正十二年度迄支出額 一七七、三六六、二一八</p> <p>大正十三年度以降支出額</p> <p>(款) 鐵道建設及改良費 一二四、九〇八、一六〇</p> <p>(項) 建 設 費 一〇六、七〇三、四三二</p> <p>(項) 改 良 費 一八、二〇四、七二八</p> <p>改定年額(大正十三年度、十五年度、十七年度及十九年度年割額ハ之ヲ略ス)</p> <p>鹽田擴張費</p> <p>既 定 總 額 五、七四九、二七三</p>
--	---

減	少	額	二、四七九、三八四
差	引	額	三、二六九、八八九
內			
	大正十二年度迄支出額		二、九三五、〇四七
	大正十三年度支出額		
(款)	鹽田擴張費		三三四、八四二
(項)	鹽田擴張費		
	改定年額(略ス)		
	砂防事業費		
既	定	總	額 一三、九二三、八六八
內			
	大正十二年度迄支出額		五〇〇、〇〇〇
	大正十三年度以降支出額		
(款)	砂防事業費		
(項)	砂防事業費		一三、四二三、八六八
	改定年額(大正十三年度乃至二十二年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	京城裁判所廳舎新營費		
既	定	總	額 五〇〇、〇〇〇
內			
計			
	大正十二年度迄支出額		二七、七六八、〇四九
	大正十三年度以降支出額		
(款)	事業費		
(項)	鐵道建設費		三、九四〇、一六四
	改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	港		
既	定	總	額 四一、九〇五、五六二
內			
	大正十二年度迄支出額		三八四、二〇〇
	大正十三年度以降支出額		
追	加	總	額 四二、二八九、七六二
計			
	大正十二年度支出額		一〇〇、〇〇〇
	大正十三年度支出額		
差	引	額	四〇〇、〇〇〇
減	少	額	
內			
	臺灣總督府		
	鐵道建設費		三〇、九六九、一九七
既	定	總	額 七三九、〇一六
內			
	大正十二年度迄支出額		三一、七〇八、二一三
	大正十三年度以降支出額		

內			
	大正十二年度迄支出額		三二、四二一、二五四
	大正十三年度以降支出額		
(款)	事業費		
(項)	港		九、八六八、五〇八
	改定年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	臺中師範學校新營費		
既	定	總	額 七〇〇、〇〇〇
內			
	大正十二年度迄支出額		五〇、〇〇〇
	大正十三年度以降支出額		
追	加	總	額 七五〇、〇〇〇
計			
	大正十二年度支出額		二〇〇、〇〇〇
	大正十三年度以降支出額		
(款)	事業費		
(項)	臺中師範學校新營費		五五〇、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	高等農林學校新營費		
既	定	總	額 四三〇、〇〇〇
內			
計			
	大正十二年度迄支出額		二五〇、〇〇〇
	大正十三年度迄支出額		
(款)	事業費		
(項)	高等農林學校新營費		一八〇、〇〇〇
	改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	高等學校新營費		
既	定	總	額 九〇〇、〇〇〇
內			
	大正十二年度迄支出額		七二四、七二四
	大正十三年度以降支出額		
追	加	總	額 一、四九八、二五七
計			
	大正十二年度迄支出額		二、二二二、九八一
	大正十三年度以降支出額		
(款)	事業費		
(項)	無線電信施設費		三七五、七九二
	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)		
	無線電信施設費		
既	定	總	額 一、八四七、一八九
內			

改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

關 東 廳

旅順第二中學校新營費

總 額

(款) 事 業 費

(項) 旅順第二中學校新營費

年額(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)

電信電話改良及擴張費

既 定 總 額

五、二六九、三六四

內

大正十二年度迄支出額 六一八、九七一

大正十三年度以降支出額

(款) 事 業 費

(項) 電信電話改良及擴張費

改定年額(大正十三年度乃至二十年度年割額ハ之ヲ略ス)

大連灣無線電信局分室移轉改裝費

總 額

四、六五〇、三九三

(款) 事 業 費

(項) 大連灣無線電信局分室移轉改裝費

年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

大連上水第三期擴張費

既 定 總 額

四、六七七、六七八

內

大正十二年度迄支出額 三、六六九、八九〇

大正十三年度支出額

(款) 事 業 費

(項) 大連上水第三期擴張費

改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

樺太廳本斗港修築費

既 定 總 額

二、五〇〇、〇〇〇

內

大正十二年度迄支出額 二、一三九、七一〇

大正十三年度支出額

(款) 特 別 事 業 費

(項) 本斗港修築費

改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

三六〇、二九〇

鐵道建設費

既 定 總 額

一七、〇七四、九〇〇

內

大正十二年度迄支出額 一一、〇四二、〇〇〇

大正十三年度以降支出額

(款) 特 別 事 業 費

(項) 鐵道建設費

改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

鐵道改良費

既 定 總 額

四、〇九〇、〇〇〇

內

大正十二年度迄支出額 三、三四一、一〇〇

大正十三年度以降支出額

(款) 特 別 事 業 費

(項) 鐵道改良費

改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

電信電話改良費

既 定 總 額

二、一四四、三〇〇

內

大正十二年度迄支出額 二九九、五九〇

大正十三年度以降支出額

(款) 特 別 事 業 費

(項) 電信電話改良費

改定年額(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

船塢修築費

既 定 總 額

一、一四〇、〇〇〇

內

大正十二年度迄支出額 一六四、〇〇〇

大正十三年度以降支出額

(款) 特 別 事 業 費

(項) 船塢修築費

改定年額(大正十二年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

文部省所管

東京帝國大學

精神病室新營費

既 定 總 額

六〇〇、〇〇〇

內

大正十二年度迄支出額 四〇五、〇〇〇

大正十三年度以降支出額

(款) 營繕費	一九五、〇〇〇	既定總額	一、二〇〇、〇〇〇
(項) 精神病室新營費		內	
改定年額(大正十三年度乃至十五年年度年割額ハ之ヲ略ス)		大正十二年度支出額	二四〇、〇〇〇
工學部應用化學科教室火災復舊費	九五一、三九〇	大正十三年度以降支出額	
既定總額	九五一、三九〇	(款) 營繕費	九六〇、〇〇〇
內		(項) 醫院建物改築費	
大正十二年度支出額	四七五、〇〇〇	改定年額(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)	
大正十三年度支出額		既定總額	九六〇、〇〇〇
(款) 災害費	四七六、三九〇	鐵道省所管	
(項) 工學部應用化學科教室火災復舊費		帝國鐵道	
改定年額(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)		資本勘定	
航空研究所擴張費	二、三五〇、〇〇〇	鐵道建設及改良費	
既定總額	二、三五〇、〇〇〇	既定總額	二、七〇四、二三九、九二六
內		減少額	二五、三九〇、〇〇〇
大正十二年度迄支出額	一、二〇〇、〇〇〇	追加額	二四、九七四、〇〇〇
差引		計	二、七〇三、八二三、九二六
減少額	一、一五〇、〇〇〇	內	
京都帝國大學		大正十二年度迄支出額	一、四一四、五三二、七二六
醫院建物改築費		大正十三年度以降支出額	
		(款) 鐵道建設及改良費	一、二八九、二九一、二〇〇
		改定年額(大正十三年度乃至二十一年度年割額ハ之ヲ略ス)	

(二) 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一般會計

陸軍省所管

衣糧費

兵器及馬匹費

輸送費

陸軍軍事費ニ屬スル衣糧費六百九拾參萬六千六百拾壹圓兵器及馬匹費四拾貳萬九千七百六拾貳圓輸送費四拾壹萬六千貳百拾六圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

(説明ハ之ヲ略ス以下之ニ倣フ)

海軍省所管

造船造兵及修理費

艦營費

海軍軍事費ニ屬スル造船造兵及修理費貳百萬圓艦營費四百拾五萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

開墾獎勵費

開墾獎勵ニ關スル助成金トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至二十二年年度)
割額ハ之ヲ略ス

中央卸賣市場特別設備費補助

中央卸賣市場特別設備費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス
(大正十三年度乃至十六年度)
割額ハ之ヲ略ス

小名濱漁港修築費補助

小名濱漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至十五年年度)
割額ハ之ヲ略ス

白濱漁港修築費補助

白濱漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十七年度以降左ノ通り改定ス(大正十七年度乃至十八年度)
割額ハ之ヲ略ス

伊東漁港修築費補助

伊東漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十七年度以降左ノ通り改定ス(大正十七年度乃至二十年)

(一年度年割額ハ之ヲ略ス)

能生漁港修築費補助

能生漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至十五年年度)
年割額ハ之ヲ略ス

油津漁港修築費補助

油津漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十七年度以降左ノ通り改定ス(大正十七年度乃至十八年度)
年度割額ハ之ヲ略ス

波切漁港修築費補助

波切漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十七年度以降左ノ通り改定ス(大正十七年度乃至二十年)
二年度年割額ハ之ヲ略ス

鮫漁港修築費補助

鮫漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至十六年度)
割額ハ之ヲ略ス

瀧漁港修築費補助

瀧漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至二十一年度)

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

割額ハ之ヲ略ス

富江漁港修築費補助

富江漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス
(大正十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

串木野漁港修築費補助

串木野漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十四年度以降左ノ通り改定ス
(大正十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

三崎漁港修築費補助

三崎漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十四年度以降左ノ通り改定ス
(大正十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

銚子漁港修築費補助

銚子漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十八年度以降左ノ通り改定ス
(大正十八年度年割額ハ之ヲ略ス)

江角漁港修築費補助

江角漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十八年度以降左ノ通り改定ス
(大正十八年度年割額ハ之ヲ略ス)

二年度年割額ハ之ヲ略ス

室津漁港修築費補助

室津漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス
(大正十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

氷見漁港修築費補助

氷見漁港修築費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十八年度以降左ノ通り改定ス
(大正十八年度年割額ハ之ヲ略ス)

補助及補償費

治水事業ニ關スル各種事業ノ補助及補償金トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス
(大正十三年度年割額ハ之ヲ略ス)

逓信省所管

逓信事業用品購入費

逓信事業ニ要スル物品購入費百貳拾萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

逓信事業用證票類調製費

第二章 議事 第二節 議案 第二款 議案ノ討議 第一項 豫算案

遞信事業用證票類調製費四拾萬圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ
大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

特別會計

大藏省所管

印刷局

印刷用物品購入費

印刷用物品購入ノ爲事業費拾壹萬六千圓材料素品費六拾八萬六千七百七圓ヲ限り大正十
四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣局

專賣品及同原料並材料及消耗品購入回送費

專賣品及同原料並材料及消耗品ノ購入又ハ回送ノ爲事業費貳拾萬八千圓材料素品費貳百七
拾四萬圓專賣品賠償及購買費六拾參萬七千圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナル
ヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

朝鮮總督府

度量衡用品購入費

巡查被服及帶具購入費

遞信事業用品購入費

航路標識用品購入費

度量衡ニ要スル物品購入費五萬圓巡查被服及帶具ノ購入費七拾萬圓電信電話線保守工事及
電信電話事業ニ要スル物品購入費貳拾萬圓航路標識事業ニ要スル物品購入費四萬圓ヲ限リ
大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品及同原料並材料及消耗品購入回送費

專賣品及同原料並材料及消耗品ノ購入又ハ回送ノ爲事業費百七拾萬圓ヲ限り大正十四年度
ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

傭外國人諸給

大學豫科ニ於テ外國人教師傭入ノ爲左ノ條件ノ範圍内ニ於テ之カ契約ヲ結フコトヲ得 (條
件ハ之ヲ
略ス)

朝鮮近海沿岸及河川航路補助

朝鮮近海沿岸及河川航路補助ニ關シ左ノ條件ヲ追加シ補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十
三年度八拾四萬百四拾九圓以内大正十四年度貳拾壹萬參百四拾九圓以内ニ改定ス

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第一項 豫算案

一 清津敦賀線ノ船舶ヲ以テ毎月一回以上一年期間十五回以上宮津及舞鶴へ寄港セシムルコト
朝鮮河川航路補助

朝鮮河川航路補助ノ爲左記條件ニ依リ大正十三年度ニ於テ壹萬五千五百參拾八圓以内大正十四年度ニ於テ五千百七拾九圓以内ヲ支出スルノ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得
(條件ハ之ヲ略ス)

金泉水道工事費補助

金泉水道工事費補助トシテ總額八萬八千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得(大正十三年度乃至十五年度年割額ハ之ヲ略ス)

平康水道工事費補助

平康水道工事費補助トシテ總額貳萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

朱乙溫川築堤工事費補助

朱乙溫川築堤工事費補助トシテ總額五萬圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

城津水道工事費補助

城津水道工事費補助トシテ總額參萬九千圓ヲ限リ左ノ年割ノ範圍内ニ於テ支出スルノ契約ヲ結フコトヲ得(大正十三年度及十四年度年割額ハ之ヲ略ス)

新義州市街整理及防水工事費補助

新義州市街整理及防水工事費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十四年度以降左ノ通り改定ス(大正十四年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

灌溉及開墾事業工事費補助

灌溉及開墾事業工事費補助トシテ支出スヘキ金額ハ大正十三年度以降左ノ通り改定ス(大正十三年度乃至十六年度年割額ハ之ヲ略ス)

臺灣總督府

度量衡器及材料購入費

度量衡器及材料購入ノ爲總督府度量衡費五萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

鐵道用品購入費

鐵道用品購入ノ爲鐵道作業費事業費七拾萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

備外國人諸給

專賣局ニ於テ外國人技術者一名傭入ノ爲左記條件ノ範圍内ニ於テ傭入ノ契約ヲ結フコトヲ得(條件ハ之ヲ略ス)

專賣品包装材料及器具機械購入費

專賣品包装材料及器具機械購入ノ爲專賣局事業費參拾萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品原料購入費

專賣品原料購入ノ爲專賣局專賣品補償及購買費貳百萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

專賣品委託販賣諸費

專賣品委託販賣諸費トシテ專賣局事業費參拾萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

森林作業器具機械及材料購入費

森林作業器具機械及材料購入ノ爲森林作業費事業費拾參萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

土場天送埤間鐵道買收費

土場天送埤間鐵道並附屬設備ヲ總額百拾萬四千七百六拾四圓ノ範圍内ニ於テ買收シ左ノ年割額ニ依リ支拂ヲ爲スノ契約ヲ結フコトヲ得(大正十三年度乃至十七年度年割額ハ之ヲ略ス)

臺灣官設鐵道用品資金

鐵道用品購入費

鐵道事業ニ要スル物品購入費百萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

關東廳

遞信事業用品購入費

遞信事業ニ要スル物品購入費貳拾萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

陸軍省所管

陸軍造兵廠

事業用器具機械消耗品及材料素品購入費

事業ニ要スル器具機械消耗品及材料素品購入ノ爲事業費八拾萬圓材料素品費貳百五拾萬圓

ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

千住製絨所

事業用器具機械消耗品及材料素品購入費

事業用器具機械消耗品及材料素品購入ノ爲事業費拾六萬六千七百五拾圓材料素品費百參萬參千貳百五拾圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍省所管

海軍工廠資金

造船造兵材料購入費

造船造兵ニ要スル材料物品費千萬圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍火藥廠

事業用物品購入費

火藥製造ニ要スル事業用物品費七拾萬圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

海軍燃料廠

事業用物品購入費

燃料製造ニ要スル事業用物品費參百參拾萬圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

農商務省所管

製鐵所

製鐵事業用品及材料購入費

製鐵事業用品及材料購入ノ爲事業費五百萬圓材料素品費千萬圓ヲ限り大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

鐵道省所管

帝國鐵道

用品勘定

鐵道用品購入費

鐵道事業ニ要スル物品ノ購入ニ付テハ現在契約額ト併セ總額壹億五千五百萬圓ヲ限り大正十四年度以降五箇年度内ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコト

ヲ得

收益勘定

鐵道事業費

鐵道事業費貳百萬圓ヲ限リ大正十四年度ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ大正十三年度ニ於テ結フコトヲ得

第二項 法律案

第一 政府提出法律案

一 煙草專賣法中改正法律案

煙草專賣法中左ノ通改正ス

第二十條ノ三中「又ハ電害」ヲ「電害又ハ病害」ニ改ム

附則

本法ハ大正十三年四月一日以後ニ生シタル損害ニ關スル分ヨリ之ヲ適用ス

右ハ大正十三年一月十九日本院ニ之ヲ提出ス同月二十二日日程ニ上リタルモ院議野田卯太郎君外

十三名提出ノ動議(第四項(五)參看)ヲ可決シタル爲延期ト爲リ次テ一月三十日再ヒ日程ニ上リタルモ解散ノ爲終ニ議事ニ入ルニ至ラサリキ

二 大正十年度乃至大正十二年度ノ歳入歳出ノ決算ノ特例ニ關スル法律案

第一條 大正十年度乃至同十二年度ノ歳入歳出ノ決算ニシテ大正十二年九月ノ震災ニ因リ成規ノ様式ニ依ルコト能ハサルモノニ付テハ勅令ヲ以テ之カ特例ヲ設クルコトヲ得

第二條 大正十一年度及同十二年度ノ歳入歳出ノ決算ハ各翌年開會ノ常會ニ於テ帝國議會ニ之ヲ提出スルコトヲ得

第三條 大正十二年度所屬ノ歳入歳出ニ付テハ大正十三年九月三十日迄之カ出納ニ關スル事務ノ完結ヲ延期スルコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ十三年一月二十九日本院ニ之ヲ提出ス同月三十一日日程ニ上リタルモ解散ノ爲終ニ議事ニ入ルニ至ラサリキ

第二章 議事

第二節 議案

第二款 議案ノ討議

第二項 法律案

第二 本院提出法律案

一 國籍法中改正法律案

第二十四條第一項ヲ削ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右ハ大正十二年十二月二十七日清瀨規矩雄君外三名之ヲ提出シタルモ院議ニ付スルニ至ラサリキ

第三項 上奏案及建議案

第一 上奏案

一 開院式 勅語奉答文案

右議事ノ經過ハ第二章第一節ニ詳記セルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス

第二 建議案

一 柳津小出間及只見古町間鐵道速成ニ關スル建議案

政府ハ福島縣柳津ヨリ只見ヲ經新潟縣小出ニ至ル間及前記只見ヨリ分岐シ古町ニ至ル間ノ鐵道ヲ速成シ以テ運輸交通ノ發達ヲ促進セラレムコトヲ望ム
右建議ス

右ハ大正十二年十二月二十八日中野寅吉君之ヲ提出シタルモ院議ニ付スルニ至ラサリキ

二 金鷄勳章年金改正ニ關スル建議案

勳章ノ制定ナキ封建時代ニ於テハ武功ノ表彰ハ一ニ其ノ優劣ニ應シ祿高ヲ給賜シタリ現在金鷄勳章年金令ニ於テ武功ノ拔群者ニ對シ名譽ノ勳章ト相俟テ年金ヲ加賜セラルルハ名實相伴ヒ誠ニ深遠ナル御恩召ニ依ル恩賞方法ナリ而シテ制定當時ノ功七級年金百圓ハ米三十俵ノ價格ニ相當シ又巡查ノ年俸給額ニ相當セリ然ルニ制定後將ニ三十年ニ垂トスル今日尙此ノ儘ニ放置シテ顧ミサル如キハ一ハ名實伴ハスシテ御制定當時ノ趣旨ニ反シ一ハ最近改正増額セラレタル一般恩給ニ比シ均シク國家ノ功勞者ヲ遇スル上ニ於テ失當ニシテ殊ニ軍縮ニ依ル退職者ノ一時賜金ノ利潤ニモ及ハサル如キハ假令年金ノ性質彼此異ナルト雖戰場ニ馳驅シタル殊勳者ニ對シ物質的優遇ノ途ヲ誤リ最高勳章ノ權威ヲ失墜シ延テ將來ノ國民思想上ニ動搖ヲ來シ愛國ノ觀念ニ一欠缺ヲ生セムコトヲ恐ル故ニ速ニ金鷄勳章年金令ヲ改正シ以テ其ノ年金ヲ相當増額セラレムコトヲ望ム

右建議ス

右ハ大正十三年一月三十一日高草美代藏君外一名之ヲ提出シタルモ院議ニ付スルニ至ラザリキ

第四項 重要動議

一 天機竝御機嫌奉伺ノ件

右ハ大正十二年十二月二十七日議長之ヲ發議シ左ノ如ク院議ニ諮フ

(前略)此際御諮リヲ致シタイコトゴザイマス、諸君、申スモ畏イ事デゴザイマスルガ、本日攝政殿下開院式ニ行啓アラセラレマスル際ニ、虎ノ門附近ニ於テ、容易ナラザル不敬ノ行動ヲ爲シタル者ガゴザイマシタサウデアリマス、洵ニ恐懼措ク能ハザル次第デアリマス、議長ハ議院ヲ代表致シマシテ、直ニ參内シテ、天機ヲ奉伺シ、皇后陛下ノ御機嫌ヲ奉伺シ、更ニ攝政殿下ノ御機嫌ヲ奉伺致シタク存ジマス、御異議ゴザイマセヌケレバ、諸君ノ御起立ヲ願ヒマス

總員起立全會一致ヲ以テ之ヲ可決シ議長ハ直ニ參内、天機竝御機嫌ヲ奉伺セリ

越テ翌二十八日議長ハ右ノ顛末ニ付左ノ報告ヲ爲ス

(前略)尙ホ御報告ヲ申上ゲマス、昨日本院ノ御決議ニ依リマシテ、議長ハ直ニ參内致シマシテ、天機ヲ奉伺シ、皇后陛下ノ御機嫌ヲ奉伺致シマシタ、更ニ赤坂離宮ニ參殿致シマシテ、東宮武官長ヲ經テ、攝政殿下ノ御機嫌ヲ奉伺致シマシタ、此段御報告ヲ申上ゲマス

二 不敬事件ニ關スル事實ノ顛末ノ報告ヲ求ムルノ件

右ハ十二年十二月二十七日岩崎勳君ハ左ノ動議ヲ提出セリ

只今ノ容易ナラザル不敬ノ行動ヲ爲シタ者ガゴザイマシタ、此事實ノ顛末ニ付キマシテ、政府ヨ

リ詳細ナル報告ヲ求メタイト思ヒマス、ドウゾ然ルベク御取計ヲ願ヒマス
院議異議ナク之ヲ可決ス次テ高見之通君ハ直ニ政府ノ報告ヲ求ムル旨ノ動議ヲ提出シ院議之ヲ採
用シ其ノ手續ノ爲暫時休憩ヲ爲ス
午後二時二十九分再ヒ會議ヲ開キ山本内閣總理大臣ハ不敬事件ニ關スル事實ノ顛末ニ付左ノ如ク
報告ヲ爲セリ

畏多キ本日ノ出來事ニ對シ洵ニ恐懼ニ堪ヘマセヌガ、一應本院ニ御報告ヲ申上ゲマス、十二月二
十七日午前十時四十五分、攝政宮殿下帝國議會開院式行啓ノ爲メ虎ノ門外御通過中、一兇漢仕
込獵銃ヲ發射セシモ、殿下ニハ全ク御安泰ニアラセラレ、其儘議院ニ臨マセラレ、滯リナク式
ヲ終ヘ、午後零時十分御無事赤坂離宮へ還啓アラセラル、供奉員一同亦無事ナリ

次テ政府ヨリ祕密會ノ要求アリ引續キ祕密會ニ入り(自午後二時三十分至同四十二分)平沼司法大
臣ヨリ事實ノ顛末ヲ聽取セリ

三 皇太子殿下御結婚ニ付賀表及賀賚捧呈ノ件

右ハ大正十三年一月二十二日議長之ヲ發議シ左ノ如ク院議ニ諮フ

諸君御承知ノ通り來ル一月二十六日ヲ以チマシテ、皇太子裕仁親王殿下、良子女王殿下ト結婚
ノ禮ヲ行ハセラレマス、此御盛儀ニ當リ 兩陛下ノ御滿悅ハ拜察スルモ畏多イ次第デアリマス、
皇室ノ御繁榮ト共ニ國運隆昌ノ基礎愈固ク、全國七千萬ノ國民齊シク衷心ヨリ歡喜ノ意ヲ表シ
テ居リマス、仍テ本院ハ院議ヲ以チマシテ、奉祝ノ誠意ヲ表シマス爲ニ賀表及賀賚ヲ捧呈致シタ

イト思ヒマス、案文ハ議長ノ手許ニ起草致シマシタモノガアリマスカラ、茲ニ之ヲ朗讀致シマス

衆議院議長 臣粕谷義三 誠恐誠惶謹テ

皇太子殿下御結婚ノ大典ヲ奉賀ス

是ハ 兩陛下ニ捧呈致シマス賀表デアリマス、次ニ

衆議院議長 臣粕谷義三 誠恐誠惶頓首

御結婚ノ大典ヲ肅賀シ

殿下無量ノ高壽ヲ奉頌ス

是ハ 兩殿下ニ捧呈致シマスル分デアリマス、之ニ御異議ガゴザイマセヌケレバ、敬意ヲ表スル
爲ニ諸君ノ御起立ヲ願ヒマス

總員起立全會一致ヲ以テ之ヲ可決セリ

越テ一月三十一日議長ハ右捧呈ノ顛末ニ付左ノ報告ヲ爲ス

是ヨリ會議ヲ開キマス、此場合去二十二日本院ノ御決議ニ係リマスル賀表、賀賚捧呈ノ顛末ヲ御
報告申上ゲマス、議長ハ御結婚ノ御當日、皇太子殿下御結婚ノ賀表ヲ同日午後三時ニ參内致シマ
シテ捧呈ヲ致シマシタ、尙ホ賀賚ハ同日東宮假御所ニ參殿ヲ致シマシテ捧呈ヲ致シマシタ、此段
御報告ヲ申上ゲテ置キマス

四 御結婚當日休會ノ件

右八十三年一月二十二日議長之ヲ發議シ左ノ如ク院議ニ諮フ

(前略)尙ホ御諮リヲ致シマス、御大典ノ當日(一月二十六日)ハ、本院ハ特ニ休會致シマシテ、敬意ヲ表シタイト存ジマス、之ニ御異議ガゴザイマセヌカ
院議異議ナク之ヲ可決セリ

五 本日はレヨリ來二十九日迄休會ノ緊急動議

右八十三年一月二十二日野田卯太郎君外十三名之ヲ提出シ同日提出者(小川平吉君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

諸君、皇太子殿下御成婚ノ御慶事ハ目睫ノ間ニ迫ッテ居リマス、然ルニ熟々本院ノ形勢ヲ按ジマスルノニ、今日議事ヲ進行致シマスルニ於テハ、餘程激烈ナル論争ヲ惹起スルコトハ想像ニ難カラザル所デゴザイマス、吾々ハ成ベク靜肅ニ、和氣藹々ノ裡ニ此大ナル成典ヲ迎ヘタイト考ヘマス仍テ本日ヨリ來ル二十九日迄八日間、衆議院ノ休會ヲスルコトヲ茲ニ動議トシテ提出致シマス、ドウゾ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

右演說中ノ言辭ニ對シ議長ハ左ノ如ク質ストコロアリ

一寸小川君ニ御尋致シマスガ、只今ノ御發議中、本日ヨリ二十九日迄ト御述ニナリマシタノデアリマスガ、其中二十六日ハ只今此處デ既ニ休會ノコトニ決シマシテゴザイマスル、之ヲ除キタル他ノ日ト云フコトニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

總員起立全會一致ヲ以テ本日はレヨリ二十六日ヲ除キタル二十九日迄休會スルニ決セリ

第五項 請願

大正十二年十二月二十八日本院ハ各部ニ於テ請願委員ヲ選舉ス委員ハ同日委員長及理事ノ互選ヲ行ヒタリ

本會期ニ於テ本院ノ受理シタル請願ハ百九十通アリ全部其ノ審査ニ著手スルニ至ラサリキ

第三章 質問及答辯

本會期ニ於テ議員ヨリ提出セラレタル質問主意書ハ五通ニシテ外ニ緊急質問一件アリ而シテ質問書ニ對シテハ孰レモ答辯ナク緊急質問ニ對シテハ小松鐵道大臣及清浦内閣總理大臣之カ答辯ヲ爲サムトシテ登壇シタルモ議場騷擾ノ爲休憩ヲ爲シ休憩中解散ヲ命セラレタルニ依リ遂ニ其ノ答辯ヲ得ルコト能ハサリキ因ニ質問ハ各省ノ所管ニ涉レリ今質問書ヲ摘録スレハ左ノ如シ

一 新橋驛復舊ニ關スル質問

一 震火災ニ因ル新橋驛大破損ノ爲該驛ニ蒸汽車ヲ停車セシメラレサルハ事情已ムヲ得サルモ

ノアルモ從來該驛ヲ中心トシテ生活シ來レル附近住民ハ二重ノ打撃ヲ被ルモノニシテ其ノ困難名狀スヘカラス本員等ハ政府カ帝都復興ヲ遂行セラルル大方針ニ基キ一日モ速ニ蒸汽車ヲ停車セシムヘク該驛ノ修繕ヲ即行セラレムコトヲ切望スルモノナリ政府ノ所見如何

二 新橋驛ハ其ノ創始ニ際シ 明治大帝御臨幸ノ光榮ヲ有シ爾來五十有餘年世界的ノ名驛ニシテ之カ復舊ハ國民ノ等シク熱望スル所ナルノミナラス帝都ニ來往スル内外多數旅客ノ利便ヨリ考量スルモ鐵道復舊工事中最先ニ著手セラルルノ必要アリト信ス政府ノ方針如何
大正十二年十二月二十七日横山勝太郎君之ヲ提出ス

二 大權ノ發動及内閣組織ニ關スル質問

何レノ立憲君主國ニ於テモ朝廷ノ尊嚴ヲ維持増進スル様ニ努力スルハ臣民タルモノノ義務テアルカ特ニ我カ國ノ如ク特異ノ國體ヲ有スル國柄ニ在ツテハ一層茲ニ注意セネハナラヌ然ルニ清浦内閣組織ノ顛末ヲ見レハ人ヲシテ足利時代ノ歴史ヲ讀ムカ如キ想アラシム聖代ノ不祥事實ニ是レヨリ大ナルハナシト長嘆大息セサルヲ得ナイ

第一 宮内官吏ノ政治的干涉

山本内閣ノ辭表捧呈後清浦樞相牧野宮相平田内府等ハ鳩首凝議ノ末平田内府ハ興津ニ急行シテ

松、西兩元老ノ意見ヲ叩キ之ヲ齎シ歸ツテ 攝政殿下ニ覆奏シ其ノ結果新内閣組織ノ大命ハ清

浦樞相ニ降レルカ如シ現内閣ハ宮内大臣内大臣ノ如キ宮内官ヲシテ政事ニ關與セシムルモ尙宮中府中ノ區別ヲ混亂シ累ヲ帝室ニ及ホスノ憂ナシトスル乎

第二 牧野宮内大臣ノ非違

山本清浦兩内閣ノ出現ニ際シ宮相牧野子カ其ノ位地職權ヲ濫用シテ奔走盡力シタル事實ハ中外ノ均シク見ル所到底之ヲ隱匿スルコトハ出來ナイ而シテ宮官ノ政事ニ干涉スルハ朝綱弛廢皇威衰頹ノ一大原因ニシテ君國ノ患害實ニ是レヨリ大ナルハナイ清浦内閣ハ右ノ事實ヲ查明糺彈シ以テ綱紀ヲ肅正スル意思ナキ乎

第三 平田内大臣ノ非違

大政輔弼ノ重責ハ國務大臣ノ負フ所斷シテ外間ノ容喙ヲ許スヘキテナイ彼ノ内大臣ノ「常侍輔弼」ナルモノハ政務以外ノ宮廷事項ニ限ルヘキモノテアルコト勿論タ加之ナラス既ニ宮内大臣カ宮廷事項ノ輔弼ニ任スル以上ハ別ニ内大臣ヲ置クノ必要ハナイ明治十八年太政大臣ヲ廢シ新ニ總理大臣ヲ置クニ方リ多年其ノ職ニ在リタル三條太政大臣ノ任所ニ窮シタル結果一時ノ便宜法トシテ内大臣ナルモノヲ設ケ宮内大臣ノ職責ノ一部ヲ割イテ之ニ分與シタニ過キナイ元來内大臣ナルモノハ君國ノ必要ニ應シテ設ケタモノテハナク唯目前ノ情實ノ爲ニ設ケタ冗官贅吏ニ

過キナイ三條内大臣ハ善ク此ノ事情ヲ熟知シテ居ツタカラ終身職分ヲ越エテ政治ニ干涉スルカ
如キコトハナカツタ然ルニ近來ノ内大臣ハ傲然トシテ王者ノ師ヲ以テ自ラ任シ我コソハ帝王ノ
政治的指導者テアルト謂ハン許リノ顔色ヲシテ居ル平生ハ遠ク逗子ニ在ツテ常侍輔弼ノ職責ヲ
怠リナカラ内閣更迭等ノ事アル毎ニ平田内大臣ハ必ス出テテ之ニ干涉スル僭越不謹慎ノ至リト
評セサルヲ得ナイ清浦内閣ハ内大臣府ノ廢止ヲ奏請シ以テ弊源ヲ杜絶スル意圖ナキ乎

第四 元老ノ暴慢無禮

内閣ハ百政ノ由テ出ツル所閣員ノ任免ハ 天皇ノ大權中最重大尊貴ナキモノアル故ニ元老其ノ
他何人ヲ問ハス之ニ關シテ 陛下ヨリ御諮問ヲ受ケタ場合ニハ其ノ事柄スラモ之ヲ外間ニ漏洩
セス閣臣ノ任免ハ一ニ 陛下ノ聖斷ニ出タコトヲ中外ニ示ス様ニ心懸ケナケレハナラヌ又内閣
組織者ノ氏名ヲ奉答スルニ方ツテモ數名ヲ列敘シ以テ取捨選擇ノ餘地ヲ存置スヘキ筈然ルニ
元老等ハ常ニ此ノ注意ヲ怠リ暴慢無禮ノ振舞ヲ爲ヌカ爲遂ニ世人ヲシテ内閣組織者ノ選定權ハ
陛下ニ在ラスシテ元老ニ在ルカ如ク妄想セシムル様ニ爲ツタ是ニ於テカ政機一度動ケハ世上ノ
耳目ハ 陛下ニ注カスシテ元老ニ注キ大小政治家ハ沼津(兩陛下避寒地)ニ拜趨セスシテ興津
(兩元老ノ病臥地)ニ膝行ス識者カ藤原氏ノ全盛時代ヲ聯想シテ切齒扼腕スルモ蓋偶然ニ非スト
思ハレル事實此ノ如キモ現内閣ハ尙大權下ニ移リ朝威冒瀆セララルル憂ナシトスル乎

第五 元老廢止ノ必要

元老等能ク人臣タルモノノ禮節ヲ解シ其ノ言動ヲ謹慎スルモ其ノ存在ハ尙昭代ノ一大汚辱タル
ヲ免レナイ況ヤ其ノ暴慢無禮ナル傲然内閣製造者ヲ以テ自ラ任シ白晝公然皇威ヲ汚瀆シテ顧慮
スル所ナキニ於テオヤ前ニ原首相ノ兇刃ニ斃ルルヤ元老等ハ高橋子ヲ其ノ後任ニ奏薦シタ而シ
テ其ノ内閣ハ左躡右蹶非常ノ失態ヲ演出シテ忽チ倒潰シタ元老ニシテ若其ノ責任ヲ解セハ奏薦
其ノ人ヲ誤リタル失態ニ對シテ罪ヲ引キ杜門三年再ヒ政事ニ容喙セサルヘキ筈ナルニ彼等ハ恬
然トシテ恩寵ニ狃レ毫モ悔悟戒慎ノ實ヲ舉ケナイ加藤男山本伯ノ奏薦亦其ノ道ヲ誤リ特ニ山本
内閣ノ如キハ在職僅ニ四箇月ニシテ既ニ幾多ノ醜狀陋態ヲ重ネタルモ元老亦恬然トシテ其ノ罪
責ヲ感セサルモノノ如シ今回清浦子ノ奏薦ニ至テハ愈出テテ愈非ナルモノ之カ爲世道人心ノ壞
亂ヲ招キ君國ヲ危殆ニ導クコト幾ント疑ヲ容ルルノ餘地カナイ 天皇陛下若輿論民意ノ所在ヲ
知ラムト欲シ給ハハ儼乎タル憲法上ノ機關即チ貴衆兩院ノ在ルアリ其ノ議長ハ貴族及民衆ノ意
向ヲ知ルコト遠ク元老ヲ超越スヘシ彼ノ活世界ト沒交渉ニシテ且制度上何等ノ職責モナキ老朽
半死ノ人物ヲ勞シ強テ物議ヲ招クノ必要ハ無イ清浦内閣ハ朝權下移皇威汚損ノ一大根源タル元
老ノ廢止ヲ奏請スルノ意思ナキ乎

第六 大權委讓

元老等ノ指名ニ因テ大命ヲ拜受シタル清浦子カ數十時間熟慮ノ末斷然之ヲ拜辭シ再度ノ大命ト
牧野平田兩宮官ノ勸誘ヲ受ケテ再ヒ其ノ決意ヲ翻ヘシタト謂フ事實ハ唯一場ノ喜劇トシテ一笑
ニ付シ去ル方カ適當タラウ大命ヲ弄ンタト謂ヘハ謂ヘナイコトモナイカ予ハ今之ヲ一笑ニ付シ
去ラウ然シ閣員ノ選定ヲ研究會ニ委讓シタト謂フ一事ニ至テハ神聖ナルヘキ大權ノ運用ニ關ス
ル君國ノ一大事テアル斷シテ之ヲ不問ニ付スルコトハ出來ナイ我カ憲法ノ正條ニ據レハ内閣各
大臣ハ各別ニ 天皇ヲ輔弼シ其ノ責ニ任スヘキモノテアツテ必スシモ一體ト爲ツテ進退スヘキ
モノテハナイ從テ 陛下ハ大命ヲ一人ニ降シテ内閣ヲ組織セシメラレテモ宜ケレハ又一人一人
陛下自ラ御任命遊ハサレテモ宜シイ獨逸皇帝ノ如キハ我カ帝國憲法ト略同様ノ成文ノ下ニ於テ
總理大臣ノ奏薦ヲ待タス各別ニ内閣大臣ヲ任命シタ我カ國テハ先帝以來憲法運用上ノ慣例トシ
テ常ニ内閣ヲ一體ト見テ其ノ組織ヲ一人ニ御命シニ爲ツタカ是レ慣例テアツテ憲法ノ明文カ必
スシモサウ出來テ居ルノテハナイ何レニシテモ閣臣ノ任免ニ關スル 天皇ノ大權ハ絶對不可侵
ノモノテナケレハナラヌ又 天皇カ内閣組織ノ大命ヲ一人ニ降シ給フノハ 陛下カ其ノ一人ヲ
信任シ給フカラテアル然ルニ清浦子ハ大命降下ノ結果トシテ生セル内閣組織權ヲ恣ニ研究會ニ
委讓シタ實ニ政事ノ根本ヲモ又臣子ノ禮節ヲモ解セサル所行テアル又研究會カ雷ニ清浦子ノ非
行ヲ咎メサルノミナラス却テ好機逸スヘカラスト倣シテ直ニ閣員ノ銓考ヲ行フニ至テハ其ノ罪

寧口清浦子ヨリモ重イ藤原北條足利等ノ時代ニ於テ朝綱弛廢シ大權下ニ移レルハ此ノ如キ暴慢
不敬ノ徒輩カ多カツタ爲テアル清浦内閣ハ此ノ大非違大不敬ニ對シテ毫モ恐懼スル所ナキノミ
ナラス却テ之ヲ當然普通ノ所行ト考フル乎

第七 各省官吏ノ朝命抗拒

再度ノ大命ニ拜辭ノ決心ヲ翻ヘシタ所ノ清浦子ハ藤村男ヲ外務ニ福田大將ヲ陸軍ニ奏薦セムト
欲シ既ニ各本人ノ承諾ヲ得タト聞ク然ルニ異議兩省ニ起ツタ爲忽チ之ヲ變更シタ抑清浦子カ右
ノ一男一大將ヲ奏薦セムトシタノハ大命降下ノ結果テアル故ニ之ニ反抗スルモノハ大權ノ發動
ヲ妨碍スルモノタ民間無職ノ一人ナラハ格別苟モ職ヲ官衙ニ奉スル者カ口ヲ部内ノ不折合ニ
藉リ又ハ連袂辭職ヲ以テ之ニ反抗スルニ至テハ分明ニ官紀ヲ紊リ朝命ヲ抗拒スルモノ斷シテ容
赦スヘキテナイ特ニ陸海軍兩省カ其ノ大臣ノ選定ヲ前任者及高級要部ノ合議ニ決セムト謂フカ
如キニ至テハ足利時代ニ於ケル山名細川ノ徒カ傲然トシテ朝命モ府令モ兩ツナカラ之ヲ蔑視シ
タト同様不敬僭越人ヲシテ慷慨悲憤ニ堪ヘサラシム然ルニ清浦子ハ其ノ所信ヲ斷行シテ大權ノ
威嚴ヲ保維スルコトヲ努メヌ却テ外務陸軍ノ朝命抗拒者ニ屈從シ以テ皇威ヲ汚瀆シ大權ヲ毀損
シタ此ノ如クシテ各省皆徒黨ヲ結ンテ大臣ノ新ニ外ヨリ來ルヲ抗拒セハ官紀ノ紊亂軍閥ノ跋扈
各省ノ割據底止スル所ヲ知ラス以テ遂ニ尾大不掉末重必拆ノ勢ヲ馴致スルニ至ラムトス此ノ如

クシテ朝命行ハレス皇威汚損セラルルモ現内閣ハ之ヲ不問ニ付セムトスル乎若之ヲ矯正スルノ意アリト謂ハハ其ノ方法果シテ如何

大正十三年一月二十一日尾崎行雄君之ヲ提出ス

三 思想善導ニ關スル質問

一 憲法附屬ノ大典タル衆議院議員選舉法改正ハ國民カ多年ノ要望ニシテ又世界ノ大勢ナリ今ヤ普通選舉即時斷行ハ我カ國政界革新上ノ急務ニシテ又國民ノ輿論ナリ然ルニ政府ハ言ヲ左右ニ託シテ民意暢達ノ道ヲ阻止セムトシ國民舉テ政府ニ誠意ナキヲ憤慨セリ古語ニ曰ク三軍ノ師ハ奪フヘシ匹夫匹婦ノ志ハ奪フヘカラス宜ナリ此ノ一事ニシテ既ニ天下ノ信ヲ失フ所ノ現政府カ國民ノ思想ヲ善導セムトスルハ恰モ木ニ縁リテ魚ヲ求ムルノ類ナリト認ム政府ノ所見如何

二 山本内閣カ大不敬事件ニ座シ責ヲ負フテ總辭職ヲ爲シタル際將來惡影響ナキヤニ慎重ナル考慮ヲ拂ハス元老准元老ニ於テ清浦首相ニ大命降下スヘク奏薦シタルハ極メテ輕舉妄動ニシテ又是レヲ拜受シタルモ共ニ君國ノ爲奉公ノ懃ヲ竭ス道ニ非スト認ム政府ノ所見如何

三 現内閣ノ成立ハ我カ國七千萬臣民ノ共ニ恐懼措ク能ハサル大不敬事件勃發直後ニシテ皇

室ノ藩屏タル貴族ハ大ニ謹慎ヲ表セサルヘカラサルノ時ニ當リ政權爭奪ニ熱狂シ遂ニ研究會ヲ中心トシテ特權階級ノミヲ以テ組織シタルモノナレハ上 皇室ニ對シ奉リ不謹慎ノ行動ニシテ下國民ヲ侮辱シタルノ甚シキモノト認ム政府ノ所見如何

四 清浦首相曰ク國民思想ノ惡化ヲ防クハ一ニ教育ノ力ニ俟タネハナラヌト誠ニ然リ然リト雖爲政者タル内閣諸公ニ於テ既ニ出處進退ヲ過リ上 皇室ニ對シ奉リ不謹慎ヲ極メ下國民ノ怨府トナリタルコト今日ニ至リテハ過リテ改ムルニ憚ルコトナク清浦首相ハ須ラク骸骨ヲ請フテ以テ上 皇室ノ御安泰ヲ計リ下國民ノ安定ニ盡スヘシ是レ君國ニ最忠ナル所以ニシテ又思想ヲ善導スル最良ノ方法ナリト認ム政府ノ所見如何

十三年一月二十二日吉田中君之ヲ提出ス

四 臺灣議會請願阻止ノ事實ニ關スル質問

臺灣ニ於テ民意暢達ノ機關ヲ設置セラレムコトヲ望ムノ政論ハ同島ノミナラス内地ニ於テモ近年相當ニ行ハレツ、アリ此等ノ論者ハ昨年二月以來東京ニ於テ臺灣議會期成同盟會ナルモノヲ設ケ先ツ帝國議會ニ對シ臺灣議會設置ノ請願書ヲ提出スルノ事務ヲ執リ臺灣在住者ヨリ右請願書ノ送付ヲ受ケツ、アリタリ然ルニ昨大正十二年十二月十六日拂曉ニ至リ臺灣總督府官憲ハ突

然臺灣全島ニ散在スル議會請願運動者林幼春、蔡培火、蔣渭水、陳逢源、蔡式毅、鄭松筠等以下四十餘名ノ者ニ對シ何等ノ理由ヲ示サスシテ嚴重ナル家宅搜索ヲ爲シ同時ニ此等ノ者ヲ全部拘束シ今期議會ニ提出スヘク調印セル臺灣議會設置請願書ハ全部之ヲ押收セリ而シテ臺灣全島ノ新聞紙ニハ此ノ事件ニ關スル報道ヲ禁シタルノミナラス此ノ運動ニ關スル個人間ノ通信往復ノ自由モ亦之ヲ奪ヒ去リ今日ニ至レルモノトス右件ニ關シ左ノ諸點ヲ明ニセラレ度シ

一 政府ハ臺灣議會設置ノ請願運動ヲ阻止スルノ目的ヲ以テ此ノ檢舉ヲ爲スモノニ非サルカ
二 議會ニ提出スヘキ請願書ヲ肆ニ押收スルハ憲法ニ保障セラレタル貴重ナル國民ノ權利ヲ蹂躪スルコトト爲リ其ノ責任ヤ重大ナリ政府ノ所見如何

三 右檢舉ハ如何ナル法規ノ適用ニ基クヤ

四 右件ニ關スル報道通信ヲ制限シタル結果本件ハ各様ニ傳ヘラレ或ハ之ヲ以テ臺灣ニ於ケル恐怖政治ナリト稱フル者アリ今ニシテ其ノ顛末ヲ明ニセスムハ其ノ害却テ大ナラムトス
政府ノ所見如何

五 右事件檢舉ニ關シ人權蹂躪ノ事實ナキヤ

十三年一月二十二日清瀨一郎君外一名之ヲ提出ス

五 清浦内閣ノ存立ハ内治外交上君國ニ對シ一大罪惡ト信スルコトニ關スル

質問

清浦内閣ノ存立ハ皇室ノ爲國家ノ爲子孫後世ニマテ一大罪惡ヲ殘スモノテアル即チ

第一 政治上累ヲ皇室ニ及ホスモノタルコト

清浦子ハ其ノ平生ノ主張トシテ現時ニ於テ政黨ノ關係ナクシテノ組閣ハ不可能ナリトノ意見ヲ懷ケルヲ以テ山本内閣瓦解後其ノ後繼者トシテ推薦セラル、モ無論拜辭ノ外ナク且自己ノ頽齡既ニ七十五ノ老耄到底時局收拾ノ能力ナシトノ決意ヲ其ノ友人並新聞紙上ニ公言シタルニモ拘ラス去ル一日元老ノ奏請ト共ニ直ニ大命ヲ拜シタリ而モ元老亦政黨ニ關係セスシテ組閣アリタシトノ意見アリタルヤニテ二日間懊惱煩悶ノ末三日午前豫テ援助ヲ内通セル清浦子爵擁立ノ策動者タル研究會ノ二三子ニ組閣拜辭ノ決意ヲ報告シ同日參内更ニ殿下ヨリ優渥ナル御詔ヲ拜シタリトテ組閣ノ再援ヲ求メ四日研究會ノ覺書ト稱スルモノニ依リ閣僚ノ詮衡即チ所謂大權一部ノ委讓ト外務陸海軍ノ人選變更トナリ七日研究會内諾濟ノ人々ヲ以テ現内閣ヲ組織シタノテアル是レ即チ本員カ目シテ以テ政治上ノ累ヲ皇室ニ及ホスモノト信スル所以テアル何トナレハ好シ元老カ爾ク自カラ老耄セリト自信セル子爵ヲ奏請セルハ明ニ人心ノ推移ヲ知ラサル時代錯誤ノ責任タルハ勿論更ニ内府宮相カ宮中府中ヲ混同シタル政治的陰謀行爲等ノ糺彈スヘキハ當然ナ

ルモ而モ組閣直前ノ責任者トシテ子爵カ真ニ自ラ知ルノ明アリ又其ノ平生ノ主張ニ鑑ミム乎子爵ハ一日御前ニ於テ直ニ拜辭シ元老ヘノ再御下問ヲ奏請スルカ又ハ政黨首領ノ推薦ヲナスヘキカ真ニ明治以來ノ一老臣トシテ君國ニ忠ナル所以テアル然ルニ拜辭ノ決心ヲ未タ上奏前早クモ之ヲ研究會ノ二三子ニ公言シテ剩サヘ二度ノ御言葉ヲ賜ハリタルカ故ニ止ムナク組閣ノ決心ヲナシタリト言フニ至テハ則チ是レ第一ニ大命ハ不可能ノモノニ可能ヲ強キル所謂逆命モ是從フトイフ君德ヲ傷クル容易ナラサル結果トナル又二度ノ御言葉故ニトハ是レ第二ニ大御心ノ深淺ヲ試験シ奉リタル不純ノ心底ヲ示スモノテアル第三更ニ二度ノ御言葉故ニ決心シタトナラハ子爵ノ忠節心ニハ第一段第二段ノ厚薄アル不臣ノ行動タルコトヲ天下ニ表明シタモノテアル抑モ天皇ハ神聖犯スヘカラストハ我憲法上ノ一大眼目テアルノニ其ノ冒瀆ノ結果ハ臆テハ清浦内閣ニ對スル天下ノ公憤ヲ皇室ニ轉化セムトスル不忠ノ行動ナリト推斷スヘキテアル依ッテ問フ(第一)清浦子平生ノ主張(第二)前段公言ノ有無(第三)再度ノ難有御言葉トハ如何ナルモノナルカ宜シク國民ニ徹底的釋明ヲナスヘキ義務アリト信ス如何

第二 立憲政治ノ運用ヲ破壞シ階級鬭爭ヲ激成シ益民心ノ惡化ヲ助長スルコト

我カ立憲君主政體ノ目的ハ歸スル所國民多數ノ幸福即チ民本主義ヲ基礎トシタル君民共治ノ和合政體テアル從テ國民ヲ代表スル衆議院ニ其ノ基礎アリテ初メテ茲ニ其ノ運用ヲ全ウスヘキテ

アル然ルニ其ノ國民ト利害關係ノ遠距離ナル一種ノ特權階級タル貴族院議員ヲ中心トシ内閣ヲ組織スルハ是レ實ニ國民間ニ階級鬭爭ノ反抗心ヲ激成シ益民心ノ惡化ヲ助長シ上下ノ乖離ヲ招徠スルコト猶ホ王朝時代ノ藤原氏カ皇室ト國民トノ間ニ介在シ遂ニ上下意思疎隔ノ結果畏レ多クモ孝明天皇御宇迄ノ一千年間我カ皇室ノ式微ヲ來シタル事例ニ鑑ムルモ明白テアル且夫レ世襲貴族トハ憲法學者バジヨットノ所謂僥倖中ノ僥倖ニ生レ父祖ノ餘德ニ依リテ其ノ地位ヲ得タル所謂累代國恩ノ負債者テアル此ノ累代國恩ノ負債者ト其ノ他ノ殊遇者ヲ以テ我カ國ノ憲法上ニ院制度ヲ採用シタル所以ハ畢竟貴族院ハ間接ニ國政ヲ監視スルモ直接政權ヲ壟斷スヘキモノテハナイ即チ此ノ監視ニ依テ衆議院萬一ノ橫暴ヲ抑止シ得ルコト例ヘハ堤防ヲ以テ洪水ヲ防クカ如シ今其ノ堤防ヲ以テ河流ヲ橫斷セム乎國土ノ荒壞知ルヘキアル即チ無解散ノ安全地帯ニ割據セル貴族院中而モ研究會ヲ中心トシテ組閣シタルハ立憲國ノ大本流タル國民基礎ノ衆議院ヲ無視シ以テ君民共治ノ我カ憲法ノ運用ヲ蹂躪シ破壞セムトスルモノテアル現ニ英國ニ於ケルカ如ク貴族院ハ豫算ニ就テ修正削除ノ權ナク又衆議院ニ於テ三回迄通過セル議案ハ無條件ニテ服從スヘキマテニ民意カ暢達シテ初メテ茲ニ皇室ノ安全ハ天壤無窮愈カ上ニモ愈御安泰トナル次第テアル我カ憲法並貴族院令ハ今ノ時勢ニ應シ改正ノ必要アルモ唯憲法第七十五條ノ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得サル現代ニ於テハ貴族院議員タルモノ宜シク此ノ内外時勢ノ推移

ニ向ツテ一大猛省ヲ要スヘキテアル然ルニ我カ憲法上無解散ノ金城湯池ニ據リ而モ其ノ徒黨カ貴族院ノ大多數ヲ抱擁シテ一大政黨組織ヲ爲セル研究會ノ如キ團體ニ對シテ一旦ナリトモ政權ヲ壟斷セシメムカ此ノ特權階級ノ專恣ハ恰カモ一千年間藤原氏カ攝政關白大臣大將迄ヲ其ノ一族ノ手中ニ壟斷シ皇室ノ御衰退ヲ來シタルト均シク正ニ是レ國民ノ階級的鬭爭心ヲ激成スルモノニ非スシテ何ソヤ

次ニ許スヘカラサル僭上ノ沙汰ハ彼等ノ一部ニハ團體擁護ノ四大文字ヲ以テ此ノ多難ナル時局ニ對スル彼等ノ特權ナルカ如ク唱道スルカ抑々六千萬ノ國民中誰レカ王臣タラサルモノヤアル僅ニ六千萬中ノ一千足ラスノ貴族ノミカ忠君愛國ノ擁護者トスレハ他ノ五千九百九十萬九千人ハ非國體擁護者トナルノテアル是レ清浦子カ右ノ二三僭上貴族ノ使喚ニ依リテ我カ六千萬國民ニ戰ヲ挑ムモノテアル次ニ御慶事中ハ政爭ヲ避クルカ爲ニ特權階級ノ組閣可ナリト言ヘル元老一派ノ意見トハ是レ實ニ上下一致國民全體ノ衷心ヨリ湧キ來レル尊皇心ヲ無視セルノミナラス抑々朝廷ノ御慶事ヲ貴族丈テ掌ツタ歴史ハ常ニ皇室式微ノ止ムナキ時代即チ元弘建武ヨリ元龜天正ノ亂世テアル事ヲ記憶セネハナラヌ更ニ本年選舉ヲ公正ニ施行セムカ爲ト言フモ既ニ現閣員中ニハ政友會脫走派ニ入黨シ官僚御用黨製造ノ陰謀歷々タルモノスラアリ如何ニシテ選舉ノ公平カ期シ得ラル、カ論シテ茲ニ到レハ清浦內閣存立ノ意義ハ既ニ全然消滅シタルニモ係ハラ

ス依然留職スル上ハ民心ノ激昂ハ必スヤ暴風怒濤ノ如ク其ノ不安ノ度ヲ高ムルヤ知ルヘキテアル現ニ現內閣成立以來滿天下ノ之ヲ呪フ聲恨ム聲ハ萬口一致曰ク特權內閣ヲ葬レバラツク內閣ヲ破壊セヨ曰ク浮草內閣等最近貴院各派有志ノ辭職勸告等ヲ見ルモ明治廿三年憲法發布以來全國民憎惡輕侮ノ目標トナリシ內閣ハ他ニ其ノ例ハナイノテアル曩ニ山本內閣舉國一致ノ實成ラヌ普選ノ實行、綱紀ノ肅正、財政ノ整理ヲ標榜セルニ拘ラスロンドンタイムスハ「日本ノ實際的當事者ハ政黨政派若クハ輿論ニ對シテ全ク無關心テアルトテ大正八年ノ米騒動ヲ引用シ日本ノ政權ハ傳統的元老政治ヨリ衣鉢ヲ襲ク人ノ掌中ニ存スルモノナリト」我カ憲法政治ノ運用ニ對スル侮蔑ノ評論カアツタ今此ノ特權階級ノ清浦內閣ヲ觀タル歐米外人ハ必スヤ言ハム日本ハ大正十三年ノ清浦內閣ニ依リテ明治大帝御下賜ノ憲法政治ヲ一千年前藤原氏ノ特權專制時代ニ逆轉スルモノテアルト斯ノ如ケン乎是レ我カ攝政殿下カ曩ニ萬里ノ波濤ヲ越ヘテ歐米列國ノ深甚ナル恭敬心ヲ受ケサセ給ヘル御外遊ノ御聖德マテ傷ケ奉ルヘキ事ヲ恐懼シテ止マナイ次第デアナル清浦子ニシテ此等内外ニ對スル影響ニ想ヒ到ツタナラハ一日モ早ク罪ヲ闕下ニ待ツコソ時局ニ對スル解決ノ唯一方法ナリト信スル如何更ニ施政方針中國國民精神ノ作興ヲ説クニ至テハ寧ロ滑稽テアル專制時代スラ上下意志ノ疎通ニ依テ其ノ目的ハ達シ得ルノテアル況ヤ立憲政治ノ下ニ於テハ國民自ラ其ノ生命財產自由即チ其ノ國民的生活ノ實際方法タル其ノ自國ノ政治ニ對ス

ル責任觀念ノ分擔即チ普選ノ實現アリテ後始メテ民心作興シ得ラル、ノテアル然ルニ國民度外ノ特權内閣ニ之ヲ望ム恰モ是レ盜賊ヲシテ仁義ヲ説カシムルノテアル又教育振興思想善導ヲ説キナカラ一面ニハ父祖ノ餘德ニ衣食スル人々ニハ政權壟斷ノ捷徑アルコトヲ示ス此ノ組閣ノ經緯ハ是レ寧ロ國民ニ向ツテ屍位素餐ノ優遇法ヲ獎勵スルモノテアル又他方ニハ清浦子カ組閣以來二週間ノ今日早クモ貴院玉座ノ前ニ虛偽ノ陳辯ヲナシテ組閣ノ經過ヲ曖昧ニ付スルカ如キハ是レ國民ニ向ツテ首相自身カ虛辯詐術ノ實物教訓ヲ示スモノテアル最後ニ時代ノ要求タル綱紀肅正カ必スヤ不能ニ了ラム其ノ證據ハ前陳セル牧野宮相平田内府ノ處置サヘ其ノ儘テハナイ乎又列席ノ水野前田兩氏ハ曩ニ樞密院ト帝國議會トニ二枚舌三枚舌ノ加藤内閣ノ下ニ於ケル綱紀紊亂ノ生キタル標本トシテ政治道德上ノ前科者テアル加藤内閣瓦解後僅ニ四箇月ニシテ忽チ此等政治道德上ノ前科者ヲ網羅セル現内閣ハ既ニ事實ニ於テ綱紀ノ肅正ヲ身自ラ破壊シツ、アルテハナイカ

第三 斯ル上下反目基礎脆弱ナル内閣ノ下ニ於テハ左ナキタニ比年追隨ト退嬰否サレハ讓歩

ト屈辱以外ニ外交ナキ我カ帝國外交ノ刷新ニ向ツテ一大勇躍ノ好時機ヲ失スルコト

即チ外交刷新ニ就テ質疑ノ趣意ヲ述ヘン抑々一國ノ外交ハ内先ツ國民ノ輿論ヲ背景トシテコソ茲ニ對手國ニ對シテ權威アル效果カ收メラレルノテアル土耳其ノケマルバシヤカ屈辱的ナルセ

一ブル條約ヲ改廢シ其ノ削ラレタル「スミルナ」ノ舊土ヲ完全ナル土耳其領ニ復歸セシメタノハ畢竟目覺メタル青年土耳其黨舉國一致ノ後援テアル伊太利ノムツソリ首相カ巴里平和會議ノ精神ヲ一抛シ希臘ニ向ツテ命令の最後通牒ヲ送ツテ其ノ要求ヲ徹底セルモ實ニ伊國國粹黨舉國一致ノ力テアル現ニ昨年一月以來其ノ巴里平和條約ノ精神並世界輿論ヨリノ迫害ヲ受ケナカラモポアンカレ「ル」地方ニ對スル軍事的壓倒政策ハ遂ニ英米ノ輿論迄モ之ヲ緩和セシメタノモ畢竟佛國民衆ノ後援テアル我カ國ノ外交ハ比年外交事務アルモ外交政策ナク列國ノ承認シタル我カ國際的權利迄モ之ヲ抛テ所謂追隨ニ非サレハ退嬰讓歩ニ非サレハ屈辱ナル此ノ連年不振ノ外交刷新ニ關シ現閣員中ノ藤村男、江木千之君等ハ定メテ苦痛ナル御記憶カアラウ即チ昨年二月二十日第四十六議會ニ於ケル貴族院空前ノ外交刷新決議案テアル當時江木千之君ノ贊成演說ニ依ルモ其ノ目的ハ先帝ノ御偉業ヲ失墜スルカ如キコトカ在テハナラヌトテ江木君自身ノ言葉ニハ當時ノ退嬰外交軟弱外交ノ文字ヲ用キ當局者ヲ督勵鞭撻シタノテアル然ルニ六箇月間其ノ貴族院ノ決議ヲ默殺シタル人々カ今ヤ吳越同舟ノ此ノ内閣ニ對シ首相ハ如何ニシテ之ヲ統一シテ外交刷新ノ目的ヲ達シ得ラル、乎又水野、前田ノ二君ト藤村、江木ノ二君ハ何ノ面目在テ此ノ壇上ニ國民ニ相見エムトスルカ而モ其ノ間日露日米支ノ外交ハ悉ク行詰ツテ仕舞ツタ今此ノ三大難局ニ對シテ外交事務家トシテ令名アル我カ松井新外相カ此ノ國民の後援ナ

キ内閣ノ下ニ如何ニシテ其ノ展開ノ途ヲ圖ラレムトハスルノテアルカ勿論松井君ノ經綸ハ未知數テ未タ何等ノ過失モナイカ惜ムヘシ既ニ外務大臣ニ就カレタ以上ハ右三大外交ニ對シ左ノ諸點ニ對シ如何ナル對策方案アリヤ承リタイ

一 日米外交 昨年十一月米國最高法院ノ判決並目下米國議會ニ提出中ノ移民改正法案ニ對スル帝國政府ハ如何ナル對策ヲ以テ帝國ノ名譽ヲ維持シ在米同胞ノ權利ヲ確保セムトスルヤ其ノ方案並日米交渉ノ經過ヲ承リタシ抑現行日米通商條約ハ明治四十四年時ノ内田駐米大使ニ依ツテ締結セラレタカ他ノ歐洲諸國ト米國トノ場所人柄ノ區別ナシト謂フ平等主義ノ條約トハ異リ特ニ農業ノ二字ヲ加ヘサル爲爾來十餘年間今日迄ノ紛擾トナリ大正二年加州ノ邦人土地所有權禁止法律案大正九年ノ借地權其ノ他ノ財產權剝奪ノ法律案通過シタルモ此等ハ米國ノ州法テ在テ米國中央政府ヲ對手トセル日本ノ條約權ヨリシテハ當然抗議スヘキテアル從テ右大正二年以來我カ繼續セル外交的抗議ハ依然固執ノ權威アルモ右昨年十一月ノ前記最高法院ノ判決ハ我カ繼續的抗議ノ實際效果ニ向ツテ一段ノ困難ヲ重ヌルニ至ツタ特ニ今ヤ米國議會ニハ移民法改正案提出セラレ歸化權ナキ國民ノ入國禁止ノ目的テアルカ是レ洵ニ日米間ノ名譽ヲ以テ十數年間勵行セル紳士協約ノ破壞テアツテ日本ニ對スル差別待遇ヲ法律ニ爲サムトスル重大案件テアル尙最近米國議會提出中ノ米國憲法改正決議案中ニモ「米國ニ於テ歸化權ナキ兩親ヨリ生レ

タル子ハ今後歸化權及米國國籍ヲ取得スルコトヲ得ス又既ニ歸化權及米國國籍ヲ取得シタル子モ本法成立後ハ直ニ之ヲ失フ」トアルカ萬一之カ通過セムカ米國ニ於テ生レシ我カ邦人ノ運命ハ實ニ亡國民同様トナルノテアル想フニ米國人ノ正義人道心ハ我震災ニ對スル無限ノ同情ニ鑑ミルモ斯ル差别的法律迄ヲ作り世界ノ面前ニ於テ公然我等日本國民ニ侮辱ヲ與フルモノテハアルマイトハ察スレトモ右最高法院ノ判決スラ明ニ日米條約ノ友好平等ナル傳統的精神ヲ破リ國際間ニ一貫セル正道人道ヲ顧ミサル辛辣ニシテ冷酷ナル判決テアルコトハ米國人中ニモ之ヲ認メテ居ル事實ニ徴シ殊ニ來ル十一月ハ大統領選舉期ニ際スルヲ以テ我カ外交的ノ此ノ交渉ハ其ノ時機最「デリケート」トハ謂ヘ顧ミテ米國輿論ノ反省ヲ求ムル爲ニハ徒ニ從來ノ如ク單ニ米國ノ恩惠的好意ニ絶ルカ如キ消極的政策ヲ改メ此ノ際朝野一致ノ意見ヲ此ノ議政壇上ニ集注シテ米國人ノ正義人道心ニ反省ヲ促ス必要カアル依テ本員ノ所信ヲ具體的ニ述ヘテ政府ノ之ニ對スル意見ヲ聽キタイノテアル即チ本員ハ信ス我カ國ハ依然外交上強硬ナル抗議ヲ提出スヘキテアル即チ一面ニハ七十年前「ヒルモア」大統領ノ時日米永遠不朽ノ和親ヲ結ヒ場所人柄ノ區別ナシトノ日米條約ノ傳統的精神ニ從ヒ他面ニハ法理上ノ根據トシテ(一)即チ米國聯邦憲法修正第十四條ニハ「何レノ州ト雖其ノ州内在住ノ總テノ人ニ法律上均等ノ保護ヲ否定スルコトヲ得ス」トノ法文(二)ハ日米通商條約中農業ノ文字コンナケレ「商業其他之ニ附帶スル事業ノ爲メ

土地ヲ使用シ賃貸スルモノニ對シテハ内國人同様ノ待遇ヲ與フ」トノ明文(三)ハ大正九年十一月一日米國政府カ當時日米交渉ノ本問題ニ關スル聲明書中「米國國務省ハ加州排日案ニ對シ亞米利加合衆國全體トシテ容認サルヘキモノニアラス且ツ現行ノ法律ト一致セス又國家トシテ正義ノ要求ニ反スルモノナリ」トノ三理由ヲ以テ大正二年以來ノ抗議ヲ固執シ更ニ場合ニ依リテハ第二ノ試訴ヲ爲シ右十一月ノ大審院判決ヲ覆スヘキ法理ヲ案出シ其ノ間行政上ノ緩和手段ヲ求ムルコトト同時ニ日本トシテハ明治四十三年制定ノ法律第五十一號外國人ノ土地所有權ニ關スル法律實施ノ勅令ヲ發シ又今期提出中ノ國籍法ノ改正ヲ斷行スルコト其ノ他或ハ通商條約ノ追加又ハ先年來金子濫澤兩子爵ノ提案タル日米間聯合高等委員會開設促進ノ如キハ後レタリト雖應急ノ一手段テアル此等ノ方法ニ依テ移民問題ヲ日米相互間名譽アル協調的精神ヲ以テ解決スル等一言スレハ現行日米通商條約ハ既ニ改廢ノ時期ニ達セル今日當局ハ從來ノ日米間交渉内容ノ公表ト共ニ官民一致ノ意見ヲ集注シテ輿論政治ノ米國國民ニ反省ヲ求ムル決心如何

二 對露交涉問題 二就テハ特ニ首相ノ答辯ヲ煩ス即チ本員ハ昨年三月六日日露通商開始促進建議案ヲ提出シタカ其ノ要旨ハ露國カ列國共通問題タル國際義務ノ承認即チ(一)既往條約ノ義務(二)舊國債義務ノ承認(三)露國ニ於ケル外人私有財產權ノ承認等ヲ承諾スル迄ハ勞農政府ノ正式承認ハ之ヲ保留シ先ツ主トシテ勞農主義ノ宣傳ヲ嚴禁シ茲ニ貿易事務官ヲ交換シテ暫定

的通商條約ヲ結ヒ極東ニ於ケル日露ノ通商ヲ開始シ國際義務ニ付テハ我カ國ハ率先シテ歐米諸國トノ間ニ介在シ露國ヲシテ是等國際的義務ヲ承認セシムヘク努力セヨトノ趣旨テアツタ越ヘテ四月ヨリ七月三十一日迄政府ハ後藤川上二氏ヲシテ非公式豫備交渉ヲ繼續セシメ其ノ結果(一)「サガレン」問題ハ價格不折合ノ爲單ニ石油石炭森林等ノ富源開發ニ關スル長期利權ヲ我カ國ニ供與スルコト(二)尼港事件ニ就テハ右「サガレン」問題有利解決ノ交換條件トシテ我カ國ハ物質的賠償ノ放棄但露國ハ精神的謝罪文提出而シテ此ノ尼港問題解決ノ場合日本ハ露領サガレン即時撤兵ノ用意アル旨自主的聲明ヲ爲スコト迄ハ一致シタレトモ(三)國債義務ノ履行問題ニ對シテハ露國カ承認セサル結果遂ニ交渉行詰リト爲ツタ其ノ後カラハン氏代ツテ我カ芳澤公使ト交渉開始ノ希望ヲ提議シタルモ時偶大震災ノ爲一時中止シタ併シナカラ前段後藤川上二氏交渉ノ内容ヲ觀レハ露國モ國際義務承認問題ハ列國共通問題ト殘ス事ハ合意スルノテアル然ラハ即チ百害アツテ一利ナキ「サガレン」ニ於ケル撤兵ヲ斷行シ茲ニ暫定通商ヲ結ヒ得ラルルノテアルカ此ノ點ハ特ニ首相ノ答辯ヲ要求スル既ニ伊太利ハ承認問題ニ入り英國勞働内閣ハ既ニ露國承認ノ交渉開始中ト聞ク佛國ノポアンカレト氏モ亦此ノ大勢ニ動カサレムトスル情報テアツテ國際間ノ前途ハ朝以テ夕ヲ圖ルヘカラサル現時テアルカラ地理的歷史的ニ最密接ナル日露ノ間ニ於テハ差當リ漁業鑛山森林等ヨリ一般西利亞富源開發ノ爲此ノ際寧ロ暫定通商條約ヲ結ヒ列

國共通ノ國際義務ノ承認義務ノ承認問題ニ對シテハ日本カ率先若ハ速ニ英國勞働內閣ト提携シテ露國ト歐米諸國トノ間ニ露國承認ノ斡旋努力ノ勞ヲ採ラルルコトハ即チ日本カ極東平和ニ對スル一大使命テアル政府ノ所信果シテ如何

三 對支政策 日支ノ關係ハ死活存亡ノ共同運命ニシテ歐米ハ商工利害ノ損得テアルコトハ本員多年ノ宿論テアル加フルニ華府會議ニモ又石井ランシング協約廢止ニ伴フ日米外交文書モ明ニ日本ノ此特種利益ノ地位ハ列國之ヲ認メテ居ル現ニ最近支那ノ貿易ニ對シテモ英國カ香港ヲ含メル三割九分ニ對シ日本ハ三割五分米國ハ僅ニ七分五厘又在支外人數ニ至テ日本ハ十五萬、英米各一萬人以下更ニ借款ニ至テハ勝田藏相ノ責任未了ノ所謂西原借款一億五千萬圓ヲ合セ實ニ四億一千二百萬圓、英ハ一億五、六千萬圓、米ハ我カ二十分ノ一ノ二千四百萬圓デアル從テ日本ハ當然主導者ノ地位ニ立チ自主的對支政策ヲ樹テヘキ地位ト實力ノ關係アルカ前段述ヘタル如ク何事モ英米追隨ノ今日差當リ如何ニシテ支那ニ安定統一政府樹立ノ方策アリヤヲ伺ヒタイ更ニ當面ノ二大懸案事件カアル之ニ對スル政府ノ對策ヲ尋ネタイ即チ其(一)ハ支那ニ於ケル排日問題ノ再發防止ニ對スル帝國政府ノ徹底の方針ヲ承リタイ即チ昨年三月以來支那全國ニ互ル排日運動ハ何時再發スルヤモ圖ルヘカラス震災ニ對スル同情ハサル事ナカラ震後排日ノ餘波ハ彼ノ宣揚丸船長射殺事件德洋丸船員抑留事件未解決ノ現狀テアル本來昨年三月ノ當初ヨリ我カ政

府カ斷乎タル決心ヲ以テ之ニ臨ミタランニハ排日事件ハ當初ニ於テ之ヲ沮止シ得ラレタルニ不甲斐ナキ外交ノ結果ハ在支同胞ノ損害凌辱ハ眞ニ言語ノ外ナイ此際政府ハ支那ニ對シ是等排日行動ノ再發防止ニ關シ新ニ斷乎タル方針ヲ宣明セラレテハ如何即チ斷乎タル聲明トハ彼ノ明治三十四年九月七日義和團事件ニ關スル列國最終議定書第十條ノ勵行ヲ支那中央地方ノ官憲ニ要求スルノテアル右第十條ニハ明ニ支那ニ於ケル排外的團體加入ノ永久禁止之ヲ犯ス者ハ死刑ニ處ストアリ更ニ進ンテ地方總督巡撫官吏等カ右排外的紛擾不取締ノ責任ニ對シテハ直ニ之ヲ罷免スルノ條文カアル何ヲ苦シンテ今日迄支那ニ於ケル排日運動ヲシテ恰モ燎原ノ野火同様ニ放任セシカ此際政府ハ右聲明ヲナス決心如何第(二)ノ重要案件ハ我カ三井物產會社、對、米國フエデル會社ノ無線電信問題テアル支那政府ハ大正七年三月我カ三井物產會社ニ三十箇年間獨占ノ無線電信設立ノ契約ヲ爲シナカラ大正十年一月ニハ更ニ米國フエデル會社ニ同一ノ二重契約ノ國際的不信義ヲナシ爾來今日マテ日米間ノ確執支那政府ノ優柔不斷ハ將ニ我カ既得權ヲ侵害スルノ恐レアルノテアル抑支那ヲシテ我カ國ニ對スル斯ル國際的不信義ヲ匡正シ我カ既得權ヲ承認セシムルコトハ極メテ簡單明瞭ノ法理カアル、聞ケハ支那外交當局者竝米國ハ右三井ノ獨占權ヲ以テ華府會議ニ於ケル支那ニ對スル門戶開放機會均等ノ原則ニ違背スルモノト主張セルトノ事テアルカ果シテ然ランニハ之レ實ニ米國ノ誤解テアツテ我國ハ堂々支那ニ向テ所謂門戶開

放ノ歴史的事實ヨリ華府會議ノ條項ニ至ルマテ之ヲ指摘シ正面支那政府ノ不法ヲ矯正スルト共ニ他面ニハ米國政府ノ誤解ヲ一掃スルノ義務アリト信スルノテアル今日迄我政府ハ果シテ斯ル手段ヲ採ラレシヤ又採ラレサリシトセハ新外相ハ如何ナル行動ヲ採ラレムトスルヤヲ伺ヒタイ抑支那ニ於ケル列國通商ノ所謂門戶放開機會均等主義ナルモノハ實ニ千八百九十九年十二月二十日米國政府ノ提議ニ係ル所謂國務卿ヘー氏ノ門戶開放案テアルカ當時右提議ノ第一ニ於ケル申合ノ公文ヲ見レハ「第一諸國ハ其清國ニ於テ保有スル事アルヘキ所謂利益の範圍内又ハ借地内ニ於ケル條約又ハ既得ノ利益ニ何等ノ干渉ヲ爲ササルヘシ」トアル即チ各國既得ノ權利ヲ除キテノ門戶開放テアツテ門戶開放ニ依テ既得權利ノ消滅スヘキモノニアラサル事ハ明白テアル、故ニ大正九年ニ於ケル支那新四國借款團ニ於テモ現ニ支那ニ於テ既成又ハ進行中ノ事業ハ共同借款團以外ニ屬シテ居ル、更ニ又大正十年七月十一日米國ヨリ華府會議ノ招待ヲ受ケタ時、帝國政府ハ「特定國間限ノ問題若クハ既定ノ事實ニ及フ事ハ慎重之ヲ避クルヲ可ナリトス」トノ趣旨ヲ米國ニ反覆繰返シタノテアル當時米國ハ之ヲ默殺シタリトハ云ヘ默認ハ即チ承諾テアル、從テ支那ニ關スル九箇國條約第三條ノ所謂門戶開放機會均等主義ノ其ノ第二項ニ於テハ明ニ左ノ如ク既得權除外ト認ムヘキ協定カアル即チ左ノ通テアル

「但本協定ハ特定ノ商工業者ノ産業的企業經營及發明、並ニ研究ノ獎勵ニ必要ナル財産、若ク

ハ權利ノ取得ヲ禁スルモノト解釋スヘカラサルモノトス」

現ニ右九箇國條約ハ大正十一年二月四日ノ決議ナルモ此ノ決議ノ前提トシテ本員ノ實地視察並米國政府出版ノ記録ニ徵スレハ同十一年一月十六日右門戶開放ニ關スル決議案ノ當時米國全權フューズ氏カ右米國國務卿ヘー氏以來ノ政策ヲ説キ「列國カ支那ニ於テ何等優先權ヲ主張セサルコトヲ約セル一決議案」ヲ提出シタ時ニ議論百出佛國全權サロー氏ハ獨占ノ明確ナル定義ヲフューズ氏ニ求メタルニ同氏ハ不可能テアルト答ヘタ茲ニ於テサロー氏ハ「現存契約ハ既往ニ遡テ之ヲ修正スルハ不當テアル」ト斷言シ英國全權バルフロワー、ゲデス兩氏ハ所謂獨占事業ニ對シ斯ク言明シタノテアル「例ヘハ鐵道電信ノ如キ事業ハ獨占的地位ヲ有スルニヨリ初テ有效ナル機能ヲ發揮スルモノナレハ斯ノ如キ性質ノ事業迄獨占ヲ不可トシテ競争ヲ許サムトスルカ如キ提案ハ不合理ノ極テアル」ト述ヘタ時フューズ氏ハ米國ノ提案ハ毫モ斯ノ如キ企圖ヲ有スルモノニアラサルナリトノ陳辯ヲ爲シ我カ幣原全權ハ右千八百九十九年所謂ヘー氏ノ門戶開放案以後支那ニ於テ獲得セル列國ノ利權ハ此ノ新原則ニ入ルヘキモノニアラスト述ヘテ佛國全權ノ主張ヲ援助シタノテアル、然ラハ即チ大正十年一月所謂米國ノ獲得シタリト稱スル權利ハ明ニ我カ三井ノ獨占權ヲ侵害スルモノテ若シ華府會議九國條約ノ精神ヲ沒却スルモノアリトスレハソハ日本ニアラスシテ寧ロ米國ノ誤解テアルト論斷スヘキテアル、本來ナラハ當時我カ全權

ハ忌憚ナク右大正十年一月米國ノフエデル會社ノ獲得セシ無線電信權ノ無效ヲ積極的ニ引例セサリシ手落ちアリタリトハ言ヘ以上會議ノ經過ニヨリテ之ヲ觀レハ我カ國ハ大手ヲ振テ支那及米國ニ對シテ積極的ニ其ノ無法ト誤解ヲ指摘スルコトカ當面ノ急務テアルト信スルノテアル、勿論、本員ハ此ノ我カ既得ノ獨占權ヲサヘ支那カ承諾シタル上ハ進テ米支英佛ト共ニ協調主義ニ移ルノ雅量ニ吝ナルモノテハナイ去リナカラ米國現代評論雜誌カールントオピニヨンノ指摘シタルカ如ク「支那ニ關スル九國條約其ノ他ノ決議案ハ獨リ日本國民カ唯一ノ犧牲者トナツテ出來上ツタモノテアル」ト言ツタ其ノ唯一ノ獨占權ヲ承認セシメ然後ノ協調主義ニ遷リタイノテアル、之ニ對スル政府ノ所信並日支日米間交渉ノ内容ヲ尋ネタイ

以上三大外交ノ目標ニ向テ現松井外相ハ今ヤ僅ニ弓ニ矢ヲ番カムトスルノ地位ニアルカ其ノ立テル地盤カ如何ニモ脆弱テアツテ寸前暗黒ナル此ノ孤立無援ノ内閣ニ於テ果シテ如何ナル名案アリト雖恐ラクハ之ヲ徹底スルコトハ至難テアラウトノ同情ハ禁シ得ナイト共ニ此ノ場合以上ノ三大外交問題ニ就テ首相竝松井外務大臣ノ所見ヲ承リタイノテアル

終ニ臨ミ首相最後ノ徹底的答辯ヲ要求シタキ事件ハ經濟復興即チ帝都復興ノ事業テアルカ畏クモ 詔勅ニ鑑ミ又世界各國民カ日本國民ノ平和的建設事業ニ對スル試練トシテ萬邦環視ノ一大急務テアル此ノ帝都復興事業カ斯ノ如ク國民全體ノ反對ヲ受クル内閣ノ下ニ如何ニシテ之ヲ遂

行シ得ルヤ清浦子ニシテ眞ニ時局ノ急ヲ救フカ爲メニ君國ニ盡スノ途ハ既ニ御慶事モ御満足ニ濟ミタル今日一日モ速ニ罪ヲ闕下ニ待チ國民ヲ基礎トシタル新内閣ノ下ニ於テ初メテ潑瀾タル内治内外ノ刷新ヲ得ヘク是レカ即チ國家ノ進運ヲ促進シ人心ヲ安定セシムル清浦氏最後御報效ノ唯一方法テアルト考ヘルカ首相ノ決心如何特ニ最近研究會一二人ノ人々カ尊大暴慢ナル意見トシテ不信任提出ノ場合ハ内閣ハ唯解散ノ一途アルノミトノ事ヲ公言シ首相亦同様公言セラレタルカ古ヨリ國家ヲ誤ルモノハ斯ノ如キ無責任ノ長袖者流ニシテ彼ノ藤原時平ノ菅公ニ於ケル坊門清忠ノ楠公ニ於ケル亦實ニ之レ等尊大不遜ノ長袖者流ノ罪テアル抑昨今政友會カ分裂前迄衆議院ニ何等味方ナキ政府カ解散ヲ斷行シテ何ヲ國民ノ前ニ訴ヘムスルノテアルカ之レ寧ロ大權干犯ト言フヘキテアル更ニ首相ハ解散ノ上國民ノ輿論ニ訴ヘムト斷言セルカ然ラハ此ノ解散前ニハ當然不信任案ノ提議ニ對シ十分意見ヲ闘ハシメ政府及反對黨原被兩告ノ意見ヲ人民ナル裁判官ニ求ムルノカ憲政ノ本義テアル以上清浦首相ハ果シテ此ノ不信任案ニ對シ十分ナル討論ヲ盡サシメ採決ノ結果ニ從テ解散ヲ行フヘシト信スルカ此ノ點ニ對スル首相ノ所見ヲ伺イタイ、要スルニ清浦子爵カ大權ノ發動タル解散ヲ以テ議員ヲ脅威セル行動ノ如キハ非立憲ノ甚シキモノテアル況ンヤ此ノ時局ニ解散ヲ斷行スルカ如キ事ハ明ニ明治大帝ノ下シ給ヘル憲法ノ精神ヲ蹂躪シ國民ニ向テ反逆許スヘカラサルクーデターヲ行フ所謂大奸ハ忠ニ似タリト言フ明治以來

ノ一大奸臣トシテ我カ歴史ヲ汚スモノテ國民ノ憤慨何レノ處ニ歸著スルカハ實ニ清浦首相ノ責任テアル本員ハ重ネテ明治以來三代ノ寵遇ニ浴シ六千萬ノ國恩ニ倚リテ七十六ノ高齡迄此ノ地位ト此ノ命數ヲ全フセラレタ清浦子爵カ其ノ晩節末路ノ艱難ニ處シ責テモ攝政宮殿下負託ノ忠節心ニ顧ミラレ速ニ處斷セラレムコトヲ君國ノ爲メ清浦子爵ノ爲メ血涙ヲ以テ之ヲ質問シ要求シテ其ノ信念ヲ尋ヌルノテアル不幸子爵ニシテ聽ク所ナクムハ本員ハ唯之ヲ忠誠ナル同胞國民ノ一大鐵血心ニ訴ヘムトスルノテアル政府ノ所見如何

十三年一月三十一日望月小太郎君之ヲ提出ス

緊急質問及答辯

一 思想惡化ニ關スル緊急質問

右ハ十三年一月三十日濱田國松君外三名之ヲ提出シ議事日程ヲ變更シテ提出者(濱田國松君)ハ左ノ如ク趣旨ヲ辯明セリ

私ハ昨夜岐阜縣竝ニ愛知縣ノ縣界ニ於テ行ハレタル、列車顛覆ノ非行事項ニ付キマシテ、政府ニ質問ヲ致シタイト存ズルノデアリマス、事柄ハ今朝以來都下ノ各新聞社ニ於キマシテモ號外ヲ

發セラレテ、大要周知ノ事實トナツテ居リマスガ、尙ホ質問ノ順序ト致シマシテ、一應述べテ見タイト思フノデアリマス、今回ノ政争ニ關シテ憲政擁護運動ノ全國ニ起ツテ居ルコトハ、隠レナイ事實デアリマス、昨三十日大阪市ニ於テ開カルベキ憲政擁護運動ニ付キマシテ、政友會ノ總裁高橋子爵、並ニ革新俱樂部ノ首領犬養氏、同ジク尾崎氏、其他同派ノ代議士二十六名ハ同大會ニ出席致シマシテ、昨日午後八時五十分大阪發ノ列車ニ搭乘ヲ致シマシテ、十一時二十分頃岐阜、愛知ノ縣界ニ掛リ、一ノ宮驛附近ヲ通過致ス際デアリマス、同所ニ於キマシテ列車顛覆ノ非行ガ計畫致サレテ居ッタノデアリマス、其計畫ハ單純ナル列車進行ノ妨害デハナイノデアリマシテ、非常ナル入込ノ重大ノ非行ガ計畫サレテ居ッタノデアリマス、「レール」ニ向ケマシテ二十貫近クノ大石ヲ積重ネ、更ニ數本ノ枕木ヲ以テ顛覆ヲ助クベキ補助ノ設計ガ致サレテアッタノデアリマス、而シテ當時該所ヲ通過シマシタル列車ニハ、不肖私共モ乗ツテ居タノデアリマシテ、能ク事情ヲ存ジテ居ルノデアリマスガ、雪除ノ排除機ガ若シ無カッタナラバ、此大石ト積重ネタル枕木ノ爲メ機關車ニ故障ヲ生ジマシテ、常識ヲ以テ判斷シマシテモ、此列車ノ顛覆サルベキコトハ當然デアルト云フコトハ、當時責任アル該列車ノ車掌ガ申シテ居ルノデアリマス、洵ニ恐ルベキ非行ガ計畫サレテ居リマシタノデアリマス、若シ此雪除ノ排除機ト云フモノガ曲ラナイデ、是ガ無クテ直ニ機關車ニ故障ヲ生ズルナラバ、ドウシテモ多數ノ人命ヲ茲ニ失ハナケレバナラヌコトニナッタノデアリマス、幸ニ其厄ヲ免レマシタコトハ同慶ニ堪ヘナイ次第デアリマス、唯私共ハ此計畫サレタル非行ニ於キマシテ、前後甚ダ不可思議ト存ジマスル一二ノ事柄ヲ茲ニ述ベテ見タイト思フノデアリマス、ソレハ此列車ノ通過致シマスル一時間弱内外ニ於キマシテ、三等急行列車ト云フモノガ其場所ヲ通過致シテ居ルノデアリマス、尙ホ詳シクハ調べマセヌガ、三十分内外ノ時機ニ於キマシテ——以前ニ於キマシテ貨車ガ通過致シテ居リハセマイカト私ハ想像スルノデアアル、第二ノ事實ダケハ未確定デアリマス、何レニ致シマシテモ、一時間弱ノ前進ノ列車ガ無事通過シタコトハ事實デアリマス、故ニ此入込ミタル有力ナル非行ノ計畫ハ系統的ニ行ハレマセヌケレバ、個人的ノ又偶發的ノ非行ト云フモノガ計畫ノ出來ルモノデナイト云フコトヲ想

像スルノデアリマス第二ニハ此顛覆ノ手段ニ供セラレタル所ノ枕木ト云フモノハ、申スマデモナク、吾々ノ同僚ガ其現場ヲ實見ヲ致シマシタノデアリマスガ、矢張鐵道當局ノ保管ヲ致シテ居ル枕木デアルト見ルコトガ出來ルノデアリマス、而シテ此手段ニ供セラレタル所ノ石ハ、僅ニ二十貫近クノ物デアツテモ、一人デ容易ニ動カスコトガ出來ナイト云フコトヲ常識上想像シマス、此犯行ガ個人的ノ犯行デナイノデアリマシテ、少クモ數名ノ者ガ共同加工ヲ致シタル犯罪デアルト云フコトヲ第二ニ想像スルコトガ出來マス、第二ニハ此線路ハ鐵道當局ノ責任ト致シマシテ、夜間ト雖モ保線ノ責任ト云フモノガアルノデアリマシテ、常ニ多數ノ人夫ヲ指揮致シマシテ、間斷ナク線路ニ危険ガアルヤ否ヤト云フコトヲ常ニ監視調査ヲ致シテ居ルベキ筋合ノモノデアリマスカラ、此短時間ニ於キマシテ此不意ノ非行ガ現ハレタト云フコトハ常識ノ上ニ於キマシテモ不思議ニ存ズル所デアリマス、第三ニ甚ダ遺憾ニ感ジマシタノハ、斯ル犯行ガ突發致シマシタル場合ニ於キマシテハ、何人モ其犯罪責任者ヲ追窮ヲシマスル必要ノ上ニ於テ、又後來ノ危害ヲ豫防スルト云フ必要ノ上ニ於テ、警察ノ働キガ敏活デナケレバナラヌノデアリマス、然ルニ此遭難列車ノ中ニハ、先刻申述ベマシタ通り前官ノ待遇ヲ受ケテ居ラル、政友會ノ高橋總裁モ乘ツテ居ラレタノデアアル、又或ル政治的ノ關係ニ依リトシテ、大臣待遇同様ノ資格ヲ受ケラレテ居ル犬養氏モ居ラレルノデアアル、私ノ存ズル所ニ依レバ、我國ノ行政警察ノ慣例ト致シマシテ、斯ノ如キ特殊ノ待遇ヲ受ケマスル所ノ人々ノ乗車ヲ致シテ居ル場合ニ於テハ、地方ノ行政警察ハ必ズ萬一ニ備フル爲メ、又其ノ保護ニ備フルニ相當ノ警察官ヲ之ニ同乗セシムルコトハ一般ノ慣例デアアルコトハ、諸君御承知ノ通りデアアル、然ルニ不思議ナルハ、殊ニ此遭難列車ニハ一般ノ慣例ニ齟齬致シマシテ一人ノ警察官モ乘ツテ居ナイ、唯、一人ノ愛知縣ノ移動警察官ト云フ者ガ車ノ中ニ、僅ニ取調べタ所ガ一人乗ツテ居ルノデアリマス、此者ハ斯ル保護ノ目的ヲ以テ責任ノ衝ニ當ツテ居ルノデハナイ、車内ニ於ケル犯罪豫防ノ爲メ、檢舉ノ上ニ付テ、移動警察ノ職責ノ上ニ於キマシテ乘ツテ居ルニ過ギナイ、直接私ノ責任デナイト云フコトヲ認メテ居ラル、而シテ此遭難事故ノ起リシ土地ガ何レノ土地デアルト云フコトヲ考ヘテ見マスルト、今回ノ政争ニ

關シマシテ政黨ノ分合ガ激シク行ハレタノデアリマス、而シテ岐阜愛知ノ地方ノ如キハ、何人ガ見マシテモ政黨分合ノ動搖スルコト激甚デアアル地方デアルト云フコトヲ想像スルコトガ出來ルノデアリマス斯ル地方ニ於キマシテ、斯ル不思議ナル状態ヲ以テマシテ、斯ル大膽不敵ナ非行ガ突發ヲ致シマシタト云フコトハ、私共常識上之ヲ判斷ヲ致シマシテ、一種ノ政治的犯罪ナリト斷言スルコトヲ憚ラヌ者デアリマス遭難ノ事柄ハ大體以上述べタ通りデアリマスガ、此事柄ノ性質ハ如何デアリマセウ、若シ此非行ニシテ目的ガ達セラレマシタ場合ニハ、多數ノ人命ヲ損シナケレバ相成ラヌ、殊ニ此列車ニハ、私ノ存ズル限りニ於テハ相當ノ外國人モ乘ツテ居タヤウデアリマス、果シテ然ラバ一ツノ國際的ノ不信用ト云フコトガ起ルノデアリマス、殊ニ目下ハ政治上ノ激甚ナル争ノ行ハレテ居ル時機デアアル、斯ル事柄ニ依ツテ前ニ述べタルガ如ク、政治界ノ中心トモ目セラレベキ有力ナル政治家ヲ首メトシテ、多數ノ國民代表者ガ此非行ノ爲ニ斃ル、コトガアリマシタナラバ、其政界ニ及ボス所ノ惡影響ト云フモノハ、殆ド言語ニ絶シタルコトデアラウト私ハ想像スルノデアリマス故ニ私ハ今回ノ列車顛覆ノ非行ヲ以テマシテ、單純ナル一ツノ社會的出來事ト見ルコトガ出來マセヌノデ、思想惡化上大ニ憂フベキ一ツノ現象ナリト存ズルノデアリマス之ニ就テ政府ニ御尋ヲ申上ゲタイ、吾々初メ一列車ニ數十人若クハ數百人ガ、假ニ此非行ニ斃ル、ノ不幸ヲ受クルモノト致シマシテモ、是ハ餘儀ナイ事ト見ルコトガ出來マスガ、我が皇室ニ於カレマシテハ、近頃東宮殿下ノ御成婚ヲ御舉ゲニ相成リ、近ク伊勢大廟、桃山御陵、其他ソレ々ノ儀式ニ定マリアル所ノ方面ニ行啓ニ相成ルコトハ、最近ノ事デアラウト思フノデアアル、斯ル思想ノ惡化ニ因テ、斯ル犯行カ臆面モナク、行ハル、今日ニ於キマシテ、政府ハ此御慶事ニ伴フ所ノ行啓ニ對シテ、思想惡化上ヨリ起ル所ノ鐵道事故等ノ有無等ニ付テ、果シテ十分ナル責任ヲ御負擔ニ相成ルコトガ出來ルカドウカト云フコトヲ、第一ニ御尋ヲ致シマス、又第二ニハ、斯ル皇室ニ關係アル臨時ノ事柄ハ別ト致シマシテモ、斯ノ如キ一般思想ノ惡化ヨリ起ル所ノ、斯ノ如キ種類ノ犯行ガ、政治的ニ、社會的ニ、各方面ニ行ハル、コトニ付テ、今後十分責任ヲ御負擔ニナルノ覺悟アルヤ否ヤト云フコトヲ、第一ニ伺ヒタイ、第三ニ伺ヒタイノハ、思想ノ

惡化ニ付テハ社會上種々ナル原因ハアリマセウガ、今日我國ノ實情ト致シマシテ、今日最モ必要ナル此政治上ニ於テ、思想ノ惡化ヲ致シテ居ルト云フコトニ付テ、政府ニ御尋ヲ申上ゲタイト思フノデアアル、今日我國ニ於テ此政治上ノ紛爭紛糾ノ劇シク相成ツタト云フコトニ付テハ、第一ニ現内閣ノ組閣ノ根本ニ於キマシテ、抑思想ヲ惡化セラル、ダケノ責任ヲ御持チニ相成ルベキモノデアアルマイカト、私ハ信ズルノデアリマス、斯ク申セバ、甚ダ抽象的デアリマスガ、元來現内閣組閣ノ根本義ニ於キマシテ、現内閣ノ首相ハ、其組閣ノ出發點ニ於テ元老ト私話セラレテ居ルト云フコトヲ逃ル、コトハ出來マセヌ、第二ニハ宮中大官ト、比周串同シタト云フコトノ責任ヲ御逃ラレニ相成ルコトハ出來マセヌ、第三ニハ我國ノ特權階級デアリマス、貴族院ノ多數分子ト共謀セラレタト云フ責任ヲ逃ル、コトハ出來マセヌ、其結果トシテ立憲政治ノ根據タルベキ所ノ衆議院ノ多數ヲ、無視セラレタト云フコトハ、當然ノ歸結ニ屬スルモノデアリマス、殊ニ一面ニ於テハ、現内閣ヲ維持センガ爲ニ、大權ニ基ク所ノ議會ノ解散ヲ豫言シテ憚ラザルニ至ッテハ、全ク大膽ナル御行動ト謂ハナケレバナリマセヌ、殊ニ政黨ノ分合ニ政府ガ干渉セラレテ、自ラ組閣ノ綱要ナリト標榜セラル、所ニ、綱紀ノ肅正ヲ自ラ案ラル、ニ至ッテハ、實ニ驚クベキ非行デアルト信ズルノデアリマス、斯ノ如ク政治上ノ犯行ヲ取テセラルルガ故ニ、今日ノ思想惡化ハ益其度合ヲ進シ、若クハ之ヲ誘導スベキ政治上ノ犯行ヲ取テセラルルガ故ニ、今日ノ思想惡化ハ益其度合ヲ進メラレタモノデアルト本員之ヲ確信シテ疑ハヌモノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスカラ、質問ノ要項ハ、御慶事ニ關シテ行啓ノ御警備ノ責任、第二ハ、社會ノ各方面ニ思想ノ惡化ヨリ起ル所ノ此人命ニ危険ヲ及ボスベキ犯行ノ防止、第三ハ、組閣ノ動機出發ガ自ラ思想ノ惡化ヲ誘發セララルモノニ非ザルカ、此三點ニ付テ明快ナル清浦首相ノ御答辯ヲ要求致シマス

小松鐵道大臣ノ答辯

是ヨリ濱田君ノ御質問ニ御答致シマス(議場騒然)去三十日午前十一時四十七八分頃(議場騒然)通過ノ時……(議場騒然聽取スル能ハス)

清浦内閣總理大臣ノ答辯

只今——只今……

第四章 全院委員長及委員ノ選舉

大正十二年十二月二十八日本院ハ全院委員長ノ選舉ヲ行ヒ富安保太郎君過半數(百五十點)ノ得票ヲ以テ當選セリ

又同日右選舉ノ後常任委員即チ豫算、決算、懲罰及請願委員ヲ選舉セリ特別委員ハ總テ議長ノ指名ニ依リ之ヲ選定ス其ノ數一ニシテ委員數十八名ナリキ

豫算委員(六十三名)

決算委員(四十五名)

懲罰委員(二十七名)

請願委員(四十五名)

委員中病氣其ノ他ノ事故ニ依リ委員ヲ辭任シタルモノ常任委員ニ於テ三名ナリシモ其ノ補闕ヲ見スシテ解散ニ至レリ

第四章 全院委員長及委員ノ選舉

附
錄

本院委員會ハ本期議會中之ヲ開キタルコトナシ常任委員會ノ開會數ハ豫算、決算、懲罰、請願ノ各一回及特別委員會ニ於テモ亦一回ニシテ總計五回ニ過キサリキ

第四十八回
帝國議會

衆議院議事摘要附錄

第一 議員及其ノ異動

本會期ニ於ケル議員ノ氏名、議席、部屬及其ノ所屬黨派ヲ表記スレハ左ノ如シ

(いろは別)

〔解散當日現在(三名闕員)〕

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
八〇	六	大阪一	革	板野友造君	三一六	三	群馬三	憲	飯塚春太郎君
二一六	九	大阪八	政	岩崎幸治郎君	二二六	三	群馬四	政	今泉嘉一郎君
四三八	七	大阪一	政本	井阪豊光君	三三一	二	群馬五	政本	今井今助君
一四三	九	新潟六	政	伊藤帛助君	一七五	一	茨城四	政	石井三郎君
					四三五	七	茨城六	政本	市村貞造君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一三三	一	栃木 二	政	石川 玄三君	一七八	四	福島 二	政	石川 淳君
三七五	六	奈良 一	政本	磯田 糸三郎君	四五	三	山形 五	革	石川 長右衛門君
四二六	八	三重 五	政本	伊坂 秀五郎君	一〇九	九	岡山 四	革	犬養 毅君
二〇四	六	三重 九	政	岩本 平藏君	三九九	三	廣島 一三	政本	井上角五郎君
二〇六	四	愛知 一	憲	磯貝 浩君	三九一	六	大分 五	政本	一宮房治郎君
一八〇	七	静岡 五	政	岩崎 勳君	四一七	二	佐賀 四	政本	石川 三郎君
二一九	一	静岡 九	憲	井上剛 一君	四四七	一	熊本 七	政本	池田 泰親君
二二五	八	静岡 九	政	池田 猪三次君	三五九	六	鹿児島 二	政本	岩切 重雄君
二五七	九	静岡 一〇	憲	石井 研二君	四〇七	一	鹿児島 七	政本	岩崎 宗茂助君
一三一	三	山梨 二	政	飯島 信明君	三二八	二	鹿児島 八	政本	禰 苗代君
二〇二	一	滋賀 三	政	井上敬之助君	三八二	七	沖繩 三	政本	石川 善盛君
三九	六	岐阜 五	庚	井上孝哉君	三〇〇	二	北海道 一	憲	一柳仲次郎君
六七	一	宮城 一	政	伊澤平左衛門君	一八八	四	北海道 七	政	石黒 長平君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
四六	一	東京 二	革	林田 龜太郎君	二九五	三	廣島 一	憲	早速 整爾君
四〇六	三	東京 一〇	政本	鳩山 一郎君	三六六	四	徳島 二	政本	原田 佐之治君
三七二	六	東京 一三	政本	長谷場 敦君	二八四	七	高知 二	憲	濱口 雄幸君
二八一	六	長崎 四	憲	橋本 喜造君	三八三	七	熊本 六	政本	原田 十衛君
一一四	二	埼玉 一	政	秦 豊助君	三九三	七	沖繩 二	政本	花城 永渡君
一九五	二	埼玉 三	政	長谷川 宗治君					
三三〇	四	千葉 五	政本	濱口 吉兵衛君	四三二	六	千葉 七	政本	西川 嘉門君
四五〇	四	栃木 四	政本	波多野 承五郎君	一四九	四	滋賀 五	政	西村 伊亮君
一一一	四	三重 三	革	濱田 國松君	六二	四	山形 三	政	西澤 定吉君
二三二	一	愛知 一〇	憲	早川 龍介君	四四四	四	石川 二	政本	西村 正則君
二一七	六	福島 八	政	八田 宗吉君	八八	七	岡山 六	革	西村丹治郎君
三三九	四	青森 四	政本	原田 藤次郎君					
四四六	一	島根 三	政本	原 夫次郎君	一九三	七	長崎 一	憲	本田 恆之君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二九〇	六	群馬	五憲	本間三郎君
四二一	三	千葉	三政本	本多貞次郎君
二〇五	六	福島	三政	堀切善兵衛君
二七	二	岡山	二革	星島二郎君
(乙)				
二六	九	兵庫	一革	土井權大君
三六	二	新潟	一二革	富永孝太郎君
二二七	三	栃木	三政	友常毅三郎君
四〇〇	九	石川	三政本	戸水寛人君
八一	九	岡山	八革	土居通憲君
二〇三	七	福岡	一五政	富安保太郎君
四五四	九	鹿児島	一政本	床次竹二郎君
二三三	六	北海道	四憲	友田文次郎君
(丙)				
二五〇	七	茨城	一政本	小山田信藏君
一一九	七	新潟	七革	大竹貫一君
二六三	五	神奈川	三憲	小野重行君
一四	四	神奈川	一無	大濱忠三郎君
一五八	四	京都	六政	大島實太郎君
二〇〇	二	京都	五政	奥繁三郎君
一八六	一	京都	四政	長田桃藏君
一五	五	京都	二庚	奥村安太郎君
二三五	二	東京	六憲	太田信治郎君
(丁)				
二五六	七	兵庫	三憲	中馬興丸君
四二四	三	宮崎	二政本	陣軍吉君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二七八	九	茨城	四憲	大津淳一郎君
九	九	三重	七庚	荻田悦造君
一一〇	八	三重	八革	尾崎行雄君
二八	四	愛知	二革	大口喜六君
一九	一	滋賀	四庚	奥村千太郎君
一六六	九	長野	四政	小田切磐太郎君
一〇六	七	長野	一〇政	小川平吉君
六〇	四	巖手	一政	大矢馬太郎君
一一八	九	山口	六政	大岡育造君
一九〇	四	和歌山	二政	岡崎邦輔君
三三六	四	徳島	五政	岡順次君
一七〇	一	香川	三政	大森貞資君
一三九	八	香川	五政	大林森次郎君
一一一	三	愛媛	一革	押川方義君
(か)				
二五	九	兵庫	一三庚	鎌田三郎兵衛君
三九二	二	兵庫	一二政本	改野耕三君
三五四	二	京都	三政本	風間八左衛門君
(わ)				
三五二	六	高知	二政本	大石大君
二五〇	四	北海道	五憲	岡本幹輔君
一五四	四	北海道	六政	岡田伊太郎君
八九	八	京都	二革	渡邊昭君
一二四	七	神奈川	一政	若尾幾造君
二〇	六	山梨	一庚	若尾璋八君
三八四	一	島根	六政本	若林徳懋君
一二六	五	山口	四政	渡邊祐策君
四五七	六	愛媛	七政本	渡邊修君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三八五	九	福井	五政本	河崎清君
三八六	五	福井	四政本	加藤勝康君
二六〇	一	福島	六憲	金澤安之助君
一八三	六	長野	五政	春日俊文君
三四二	二	岐阜	四政本	川村數郎君
二八八	六	静岡	七憲	加藤定吉君
三一二	九	愛知	五政本	加藤紋右衛門君
四〇五	一	愛知	一政本	加藤重三郎君
三〇三	一	三重	一〇憲	川崎克君
三四八	一	三重	六政本	加藤久米四郎君
二六一	二	埼玉	四憲	神谷彌平君
二二二	議長	埼玉	二政	粕谷義三君
三一八	四	長崎	二憲	川副綱隆君
議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三〇二	三	富山	三憲	香川保忠君
七〇	五	廣島	四政	河相三郎君
二四四	七	廣島	一〇憲	金田平兵衛君
三九八	五	德島	一政本	海原清平君
三五七	五	愛媛	二憲	門屋尙志君
一六八	九	愛媛	三政	河上哲太君
六八	六	福岡	一七政	神崎勳君
四二五	六	大分	二政本	金光庸夫君
三八一	九	佐賀	五政本	川原茂輔君
三三八	四	宮崎	一政本	柿原政一郎君
四三〇	四	鹿兒島	四政本	海江田準一郎君
二一〇	八	東京	三憲	橫山勝太郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二四九	八	大阪	六憲	吉川吉郎兵衛君
一五三	九	神奈川	五政	吉野小一郎君
三六九	五	千葉	二政本	吉植庄一郎君
一〇五	四	栃木	七政	橫田千之助君
四〇四	三	愛知	一三政本	吉原祐太郎君
四四一	四	滋賀	一政本	吉村鉄之助君
四三六	九	石川	四政本	米原於菟男君
三三四	二	富山	四政本	米澤與三次君
一九九	五	廣島	五憲	橫山金太郎君
三三三	八	山口	九政本	吉木陽君
二二六	六	廣島	一二憲	吉田中君
三〇八	三	福岡	五憲	吉田磯吉君
七六	四	福岡	一三政	吉原正隆君
議席 <td>部屬</td> <td>選舉區</td> <td>黨派</td> <td>氏名</td>	部屬	選舉區	黨派	氏名
二八二	四	東京	七憲	賴母木桂吉君
四一六	八	東京	八政本	高橋義信君
三八	六	東京	一三革	高木正年君
六五	三	京都	一政	竹上藤次郎君
二八三	三	大阪	二憲	武内作平君
二六六	六	大阪	九憲	田中萬逸君
二二九	二	神奈川	四憲	田川平三郎君
一八九	一	兵庫	八政	多木久米次郎君
二八〇	四	兵庫	一〇憲	田中武雄君
七五	四	長崎	三革	田川大吉郎君
三七八	六	新潟	四政本	田邊熊一君
三六一	八	新潟	五政本	高橋光威君
二四〇	一	新潟	六憲	建部遜吾君
三三二	七	新潟	八政本	高橋金治郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
八五	三	新潟一	政	武田德三郎君
二三七	五	埼玉三	憲	高田良平君
七九	八	埼玉六	政	龍野周一郎君
四三三	七	千葉九	政本	竹澤太一君
三二九	七	茨城八	政本	高柳淳之助君
四四八	一	茨城九	政本	高野毅君
四六〇	八	栃木四	政本	田村順之助君
三〇六	二	栃木七	憲	高田耘平君
三二二	八	奈良五	政本	玉置良直君
二七四	八	愛知四	憲	田中善立君
三六〇	九	愛知七	政本	瀧正雄君
一〇一	七	静岡二	革	高柳覺太郎君
三六二	七	岐阜四	政本	大道寺慶男君
九三	五	宮城六	政	高橋長七郎君
六九	七	山形四	政	高橋辰二君
一三四	八	山形六	政	高橋善五郎君
四五五	二	秋田一	政本	田中隆三君
三六三	八	富山一	政本	高見之通君
二二九	七	島根三	憲	高橋久次郎君
四七	七	岡山五	革	高草美代藏君
四三六	五	廣島六	憲	龍口了信君
五四	四	和歌山四	無	田淵豊吉君
一六五	八	香川一	政	田中定吉君
一一三	七	愛媛五	政	高山長幸君
三九七	九	高知五	政本	竹内明太郎君
二九六	一	佐賀二	憲	武富時敏君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三九五	三	熊本二	政本	高木第四郎君
三四七	三	山形一	政本	添田敬一郎君
一二〇	四	秋田七	革	添田飛雄太郎君
八	三	佐賀一	無	副島義一君
三五三	九	東京一三	政本	土屋興君
三一五	六	京都七	憲	津原武君
四六一	一	兵庫一	政本	坪田十郎君
三四九	八	奈良三	政	津野田是重君
三一〇	二	長野七	政本	塚原嘉藤君
一三七	四	山形五	政	鶴見孝太郎君
五八	八	福岡一	政	辻勇夫君
三四五	七	鹿兒島六	政本	津崎尙武君
一三	四	茨城三	無	根本正君
二七一〇	二	大阪三	政本	中橋德五郎君
四八	九	兵庫六	革	中川幸太郎君
二五二	一	兵庫九	憲	内藤濱治君
四〇一	二	長崎五	政本	中倉万次郎君
一六四	四	千葉一	政	中山佐市君
一三〇	一	滋賀六	政	中村喜平君
一四五	三	宮城四	政	中島鵬六君
二五八	九	福島七	憲	中野寅吉君
四三九	三	秋田四	政本	成田直一郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三〇五	六	石川	一憲	永井柳太郎君
四二三	二	愛媛	二政本	成田榮信君
四九	九	福岡	一革	中野正剛君
四〇	九	福岡	八庚	納富陳平君
一三八	五	福岡	九政	中村清造君
四一八	七	佐賀	四政本	南里琢一君
七八	四	熊本	五政	中島照寬君
四四三	一	宮崎	一政本	長峰與一君
四三四	九	宮崎	二政本	永井作次君
六六	五	沖繩	四政	仲田德三君
三八〇	二	北海道一二	政本	中西六三郎君
三五	二	大阪	四革	村田虎之助君
一五九	八	栃木	一政	植竹龍三郎君
二〇一	一	千葉	六政	鶴澤總明君
二九二	七	千葉	四憲	鶴澤宇八君
一	四	長崎	四無	白井哲夫君
三八八	五	大阪	七政本	植場平君
三〇	五	大阪	三庚	上田彌兵衛君
一一	五	大阪	二庚	上畠益三郎君
一七九	六	東京一六	政	内山安兵衛君
二〇九	八	秋田	二憲	村山喜一郎君
一一七	四	群馬	三政	武藤金吉君
三五六	五	長崎	七政本	向井倭雄君
二七九	三	大阪	四憲	紫安新九郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一〇〇	五	長野	八革	植原悅二郎君
三四六	三	青森	三政本	宇野勇作君
四一九	二	青森	七政本	梅田潔君
三六八	九	富山	五政本	上埜安太郎君
八四	五	熊本	五政	上塚司君
二二〇	五	兵庫	一憲	野田文一郎君
四五二	五	長崎	三政本	則元由庸君
二二八	七	埼玉	一憲	野呂丈太郎君
三二一	二	岐阜	七政本	野呂駿三君
九九	三	長野	一革	野溝傳一郎君
一八五	二	宮城	三政	野副重一君
四二〇	八	青森	六政本	野村治三郎君
二四一	一	福井	二憲	野尻彌重郎君
八二	五	新潟	三革	倉石知藏君
五二	六	巖手	三政	久慈貫一君
二七二	四	山形	二憲	黒金泰義君
二二三	二	山形	五政	熊谷直大君
五六	一	山口	五政	國重政亮君
一六二	八	和歌山	一政	久下豊忠君
一一六	六	高知	四政	國澤新兵衛君
九四	六	鹿児島	三政	久木田叶君
三三三	九	北海道一〇	政本	栗林五朔君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七三	二	北海道一	政	黑住成章君	二六八	三	長野六	憲	山邊常重君
七	五	山口八	庚	窪井義道君	一一五	九	福井一	政	山本条太郎君
	(中)				四四〇	一	福井二	政本	柳原九兵衛君
二二一	七	東京一二	憲	八並武治君	二二	三	鳥取一	庚	山本藤助君
九六	六	大阪五	政	山口義一君	四一四	二	鳥取三	政本	山口嘉藏君
一七	一	兵庫四	庚	山邑太三郎君	三	五	廣島三	無	山科慎次郎君
一九四	一	新潟一三	政	山本悌二郎君	二二一	二	廣島八	憲	山道襄一君
一三二	九	埼玉四	政	山崎猛君	二三	二	山口七	庚	矢島專平君
一五九	五	茨城二	政	谷津新八郎君	四三一	一	和歌山四	政本	山口熊野君
三八九	九	奈良四	政本	八木逸郎君	四三七	一	愛媛六	政本	矢野丑乙君
四〇九	五	愛知六	政本	山本清三郎君	二五五	四	北海道二	憲	山本厚三君
一八二	二	滋賀二	政	安原仁兵衛君		(ま)			
三四三	四	岐阜一	政本	山田永俊君	一七六	八	東京一四	政	前田米藏君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一四二	三	兵庫一二	政	松山常次郎君	二	一	德島四	無	松島肇君
一九六	八	兵庫一四	憲	正木照藏君	二四	二	香川六	庚	松田三徳君
四一〇	八	長崎六	政本	牧山耕藏君	四六二	長副議	大分七	政本	松田源治君
三五五	二	新潟七	政本	丸山嵯峨一郎君	一八一	五	熊本四	政	松野鶴平君
二五一	二	新潟九	憲	牧口義矩君	三一	九	鹿児島五	庚	松下禎二君
二四六	六	群馬二	憲	松井鉄夫君	七七	九	北海道七	政	松實喜代太君
一八四	六	栃木五	政	松岡俊三君		(ふ)			
一六三	五	愛知一二	政	舞田壽三郎君	三五七	八	奈良二	政本	福井甚三君
四三	一	静岡一	革	松本君平君	二九九	四	岐阜八	憲	古屋慶隆君
三七九	八	静岡七	政本	松浦五兵衛君	二七三	六	長野七	憲	降旗元太郎君
四四五	九	岐阜九	政本	牧野良三君	四五二	一	岡山七	政本	福井三郎君
一〇三	九	福島一〇	政	松本孫右衛門君	二三八	三	山口一	憲	藤井啓一君
四二九	三	石川五	政本	益谷秀次君	九五	九	愛媛三	政	深見寅之助君
一二八	三	和歌山三	革	前川虎造君	三六四	九	沖繩一	政本	麓純義君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
二九	二	東京	五革	近藤達兒君	四四	七	岡山	三革	小橋藻三衛君
一〇八	八	東京	八革	古島一雄君	三五	九	山口	二政本	古林新治君
二九七	三	神奈川	二憲	小泉又次郎君	二五五	一	福岡	一〇憲	古賀三千人君
一六一	九	神奈川	六政	小鹽八郎右衛門君	四	六	熊本	一政	小橋一太君
二四八	八	群馬	四憲	木曾三四郎君	三〇七	七	北海道	九憲	小池仁郎君
一九一	五	茨城	一〇政	小久保喜七君	一四一	八	宮城	七政	遠藤良吉君
三四	二	三重	一庚	越山太刀三郎君	(七)				
一八	五	三重	二革	小菅劍之助君	二六二	三	神奈川	五憲	出口直吉君
二五八	八	愛知	一憲	小山松壽君	(あ)				
一二七	五	静岡	一〇政	小泉策太郎君	五九	二	東京	七無	安藤正純君
三七七	七	長野	一政本	小坂順造君	三一七	四	東京	一四憲	淺賀長兵衛君
一四六	五	巖手	四政	河野喜藏君	一三三	七	東京	一六政	秋本喜七君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
三二四	五	大阪	四政本	赤田瑛一君	一九二	一	北海道	八政	東武君
三七三	四	新潟	一〇政本	青木恆太郎君	二四三	二	北海道	八憲	淺川浩君
四三二	五	栃木	六憲	阿由葉勝作君	(さ)				
三二〇	五	三重	五政本	天春文衛君	九二	二	東京	六革	佐々木安五郎君
一三五	二	山梨	三政	穴水要七君	二六七	八	東京	八憲	作間耕逸君
四二八	九	青森	五政本	阿部武智雄君	一九七	九	大阪	七憲	佐竹庄七君
三一九	二	石川	四憲	淺野順平君	三四一	六	新潟	一憲	齋藤巳三郎君
三三	一	岡山	一庚	有森新吉君	三二七	三	新潟	五政本	佐藤榮吉君
二八九	四	廣島	七憲	荒川五郎君	二三四	二	埼玉	二憲	齋藤小十郎君
一五五	七	徳島	三政	淺石惠八君	二二四	五	埼玉	五政	指田義雄君
九八	九	徳島	六革	秋田清君	三七四	九	群馬	六政本	齋藤壽雄君
一五七	七	福岡	二政	有馬秀雄君	四〇二	八	愛知	一政本	齋藤鷲太郎君
一二五	三	福岡	一〇政	青柳郁次郎君	一五六	七	山梨	五政	三枝彦太郎君
二八五	二	熊本	四憲	安達謙藏君	一八七	七	長野	九政	佐藤寅太郎君

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七一	四	宮城	五政	佐藤庄助君	二五四	三	福岡	六憲	定行八郎君
六一	八	巖手	七政	佐藤良平君	六三	八	福岡	一六政	崎山克治君
三〇一	七	山形	三憲	佐藤啓君	三二	六	北海道	三庚	佐々木平次郎君
七四	八	秋田	五革	齋藤宇一郎君	(き)				
四六三	五	秋田	六政本	榊田清兵衛君					
四一五	一	島根	一政本	佐野正雄君					
三七六	八	島根	二政本	櫻内幸雄君					
一四七	六	岡山	三政	佐々木志賀二君					
三〇九	九	廣島	二憲	佐々木千秀君					
二六四	一	廣島	七憲	佐久間啓莊君					
四二七	八	山口	三政本	阪上貞信君					
一四八	八	高知	三政	阪本素魯哉君					
一五三	九	福岡	五政	坂井大輔君					

議席	部屬	選舉區	黨派	氏名	議席	部屬	選舉區	黨派	氏名
一七二	四	鳥取	四政	清瀬規矩雄君	四五三	六	静岡	三政本	宮崎友太郎君
四五六	六	大分	三政本	木下謙次郎君	一七七	一	長野	三政	宮澤長治君
三三七	六	大分	四政本	吉良元夫君	四二二	四	秋田	三政本	三浦權兵衛君
三三五	二	佐賀	三政本	木下十四三君	七一	七	香川	二政	三善清之君
四〇三	一	沖繩	二政本	宜保成晴君	一〇四	二	香川	五政	三土忠造君
一一二	一	北海道	九政	木下成太郎君	三四四	六	高知	一政本	水野吉太郎君
九一	三	廣島	一革	湯淺凡平君	八六	六	福岡	一〇政	三好徳松君
一三六	八	東京	六政	宮崎三之助君	二〇七	七	宮崎	三憲	三浦得一郎君
二九一	六	東京	一憲	三木武吉君	二七七	六	大分	一憲	箕浦勝人君
二一	八	大阪	一〇庚	南鼎三君	二七〇	二	群馬	一憲	清水留三郎君
四五八	一	茨城	五政本	宮古啓三郎君	四一三	三	愛知	四政本	下出民義君
三六七	六	愛知	八政本	三輪市太郎君	三二三	五	愛知	九政本	清水市太郎君
(み)					(り)				

議席部屬	選舉區	黨派	氏名
五七	二 福島	九政	白井博之君
八七	五 巖手	六政	志賀和多利君
二四五	九 鳥取	三憲	下田勘次君
一九三	八 島根	五政	島田俊雄君
二五三	七 大分	七憲	重松重治君
四二二	八 熊本	六政本	島本信二君
四二一	五 大阪	一政本	樋口伊之助君
四六四	五 兵庫	一四政本	廣岡宇一郎君
三七	七 静岡	四革	平野光雄君
四四九	七 岐阜	六政本	匹田銳吉君
二七一	五 長野	一三憲	樋口秀雄君
一六〇	七 巖手	五政	廣瀬爲久君
二七五	一 京都	一憲	森田茂君
四一	三 大阪	一庚	森下龜太郎君
一七四	三 神奈川	七政	森格君
三〇四	一 山梨	四憲	望月小太郎君
二六九	六 福島	四憲	栗山博君
三一一	五 鹿兒島	五政本	東幸治君
一九八	三 北海道	一二憲	平出喜三郎君
四五九	三 鹿兒島	七政本	日野辰次君
四四二	四 鹿兒島	三政本	樋渡次右衛門君
一四四	四 福岡	一四政	樋口典常君
四〇八	三 島根	四政本	平田民之助君
一三六	五 富山	六政本	廣瀬鎮之君

議席部屬	選舉區	黨派	氏名
二四二	三 長野	二憲	森山儀文治君
四二	七 秋田	七革	最上直吉君
一六	一 岡山	五庚	守屋松之助君
九七	三 廣島	九政	望月圭介君
一五二	五 和歌山	三政	望月政友君
二六五	八 愛媛	四憲	森達三君
一六九	八 福岡	三政	毛里保太郎君
三七一	二 大分	六政本	元田肇君
二二五	九 熊本	三政	門田新松君
一一二	三 東京	四革	關直彦君
二八七	五 千葉	六憲	關和知君
五〇	九 愛知	三無	千賀千太郎君
一二	三 岐阜	三庚	仙波太郎君
九〇	四 東京	一革	鈴木梅四郎君
一〇二	一 兵庫	一革	砂田重政君
三五八	七 新潟	一二政本	鈴木義隆君
二三四	八 千葉	八政	鈴木隆君
七二	四 千葉	八革	鈴木久次郎君
一六七	七 茨城	七政	鈴木錠藏君
二九四	三 愛知	一一憲	鈴置倉次郎君
二二三	八 静岡	六憲	鈴木富士彌君
二二三	五 宮城	二政	菅原傳君
一四〇	一 福島	一政	鐸木三郎兵衛君
二四七	八 福島	三憲	鈴木周三郎君
五五	三 巖手	二政	鈴木巖君
三四〇	九 富山	二政本	菅野傳右衛門君

而シテ議員ノ異動ハ八名アツ其ノ氏名及異動事由ハ左表ノ如シ

議員異動(自第四十七回議會閉會當日
至第四十八回議會解散當日)

選舉區	前議員	派黨	異動事由	補闕當選者	派黨	當選年月日
廣島縣第十二區	(永屋茂君)	政	(死去) 大正二年一月八日	吉田中君	憲	大正二年一月二十四日
福岡縣第四區	(鮎川盛貞君)	革	(辭職) 一一、一一、二三	坂井大輔君	政	一一、一一、二五
神奈川縣第一區	(島田三郎君)	革	(薨去) 一一、一一、二四			
福井縣第四區	(高島七郎右衛門君)	政	(死去) 一一、一一、二五	加藤勝康君	政本	一一、一一、二四
鹿兒島縣第五區	(萩亮君)	政	(死去) 一一、一一、一九	東幸治君	政本	一一、一一、二四
山口縣第八區	難波作之進君	庚	(辭職) 一一、一一、二八	窪井義道君	無	一一、一一、二五
福島縣第五區	河野廣中君	憲	(薨去) 一一、一一、三〇			
三重縣第四區	宮田光雄君	庚	(退職) 一一、一一、二二			

(備考)

- 一 黨派欄中政ハ立憲政友會、憲ハ憲政會、政本ハ政友本黨、革ハ革新俱樂部、庚ハ庚申俱樂部、無ハ無所屬ナリ
- 一 括弧内ハ第四十七回議會閉會當日以前ノ異動ナルモ補闕選舉ノ關係上掲載セリ
- 一 第四十八回議會解散當日ノ闕員三名ナリ

本會期ニ於ケル議員控室ハ左ノ如シ

- 第一控室(二室) 革新俱樂部 第二控室(四室) 政友本黨
- 第三控室(一室) 庚申俱樂部 第四控室(一室) 無所屬
- 第五控室(六室) 政友會 第六控室(四室) 憲政會

第二 國務大臣及政府委員

本會期ニ於ケル國務大臣及政府委員ノ氏名左ノ如シ

國務大臣(一月七日辭職)

- 内閣總理大臣 伯爵 山本權兵衛君
- 内務大臣 子爵 後藤新平君
- 農商務大臣兼 岡野敬次郎君
- 海軍大臣 財部 彪君
- 陸軍大臣 男爵 田中義一君
- 遞信大臣 大 養一毅君

國務大臣（二月七日任命）

司法大臣	牽沼騏一郎君
鐵道大臣	山之內一次君
大藏大臣	井上準之助君
外務大臣	伊集院彥吉君
內閣總理大臣	子爵 清浦 奎 吾君
外務大臣	男爵 松井慶四郎君
內務大臣	水野鍊太郎君
大藏大臣	勝田主計君
陸軍大臣	宇垣一成君
海軍大臣	村上格一君
司法大臣	鈴木喜三郎君
文部大臣	江木千之君
農商務大臣	子爵 前田利定君
遞信大臣	男爵 藤村義朗君

鐵道大臣

小松謙次郎君

政府委員（大正十二年十二月二十五日召集日任命）

政府委員	內閣恩給局長	下條康麿君	法制局長官	松本 丞 治君
	法制局參事官	山本犀藏君	法制局參事官	金森德次郎君
	拓殖事務局長	儀 孫 一君	統計局長	阿部 壽 準君
	<small>臨時震災救護事務局書記</small>	堀切善次郎君	社會局長官	池 田 宏君
	<small>朝鮮總督府監</small>	有吉忠一君	<small>朝鮮總督府</small>	和田 一 郎君
	<small>朝鮮總督府</small>	矢鍋永三郎君	<small>臺灣總督府</small>	賀來佐賀太郎君
	<small>臺灣總督府</small>	阿 部 滂君	關東廳事務總長	川口 彦 治君
	關東廳事務官	西山左內君	樺太廳長官	永井金次郎君
	樺太廳事務官	石坂 豐 一君	南洋廳長官	橫田 鄉 助君
	南洋廳財務部長	堀口滿貞君		

外務省所管事務政府委員

附錄 第二 國務大臣及政府委員

外務次官 松平恒雄君
 外務省歐米局長 廣田弘毅君
 外務省條約局長 山川端夫君
 外務書記官 赤松祐之君
對支文化事務官 外務書記官 岡部長景君
亞細亞省 出淵勝次君
外務省通商局長 永井松三君
外務省通商局長 山崎次郎君

內務省所管事務政府委員

內務次官 塚本清治君
 內務省地方局長 潮惠之輔君
 內務省土木局長 長岡隆一郎君
內務省都市計畫局長兼內務省參事官 堀切善次郎君
 社會局長官 池田宏君
 社會局部長 三矢宮松君
 北海道廳長官 土岐嘉平君
 內務省神社局長 大海原重義君
 內務省警保局長 岡田忠彦君
 內務省衛生局長 山田準次郎君
 內務技監 原田貞介君
 社會局部長 河原田稔吉君
 社會局部長 次田大三郎君
 北海道廳長官 古宇田晶君

大藏省所管事務政府委員

大藏次官 西野元君
 大藏省主稅局長 黒田英雄君
 大藏省銀行局長 松本脩君
 大藏書記官 草間秀雄君
 大藏書記官 富田勇太郎君
 大藏書記官 太田嘉太郎君
 大藏書記官 岡田信君
 專賣局長官 今北策之助君
 大藏省主計局長 田昌君
 大藏省理財局長 小野義一君
 大藏省參事官 藤井眞信君
 大藏書記官 佐野正次君
 大藏書記官 河田烈君
 大藏書記官 青木得三君
 大藏書記官 川越丈雄君
國有財產整理局長 大藏書記官 鈴木繁君

陸軍省所管事務政府委員

陸軍次官 宇垣一成君
 陸軍一等主計正 中村精一君
 陸軍主計總監 三井清一郎君

海軍省所管事務政府委員

海軍次官 岡田啓介君
 海軍主計中將 深水貞吉君

海軍主計大佐 刑部 齊君

司法省所管事務政府委員

司法次官 山内確三郎君
司法省民事局長 池田寅二郎君
司法省行刑局長 山岡萬之助君
司法省人事局長 光行次郎君
司法省刑事局長 林頼三郎君
司法書記官 近藤三郎君

文部省所管事務政府委員

文部次官 赤司鷹一郎君
普通學務局長 山崎達之輔君
文部省圖書局長 幣原坦君
文部省參事官 下村壽一君
文部書記官 窪田治輔君
專門學務局長 松浦鎮次郎君
實業學務局長 粟屋謙君
文部省宗教局長 武部欽一君
文部書記官 伊藤仁吉君
維新史料編纂事務局長 柴田駒三郎君

農商務省所管事務政府委員

農商務次官 竹内友治郎君
農務局長 鶴見左吉雄君
商務局長 中井勵作君
山林務局長 村上隆吉君
水產局長 松村真一郎君
畜產局長 崎川才四郎君
特許局長官 森谷秀三郎君
製鐵所理事
農務局長 長滿欽司君
農務局長 男爵 四條隆英君
商務局長 宮内國太郎君
鐵山務局長 三浦實生君
食糧局長 戶田保忠君
農商務書記官 白仁武君
製鐵所長官

遞信省所管事務政府委員

遞信次官 若宮貞夫君
遞信省電氣局長 中西四郎君
遞信省經理局長 杉精三君
航空局次長 波多野保二君
遞信省通信局長 米田奈良吉君
遞信省管船局長 宮崎清則君
簡易保險局長 桑山鐵男君
貯金局長 天岡直嘉君

鐵道省所管事務政府委員

附錄 第二 國務大臣及政府委員

鐵道次官 中川正左君
 鐵道省運輸局長 村井二郎吉君
 鐵道省工務局長 岡野昇君
 鐵道省電氣局長 吉原重成君
 鐵道省監督局長 岡田意一君
 鐵道省建設局長 八田嘉明君
 鐵道省工作局長 高洲清二君
 鐵道省經理局長 別府丑太郎君

政府委員

(大正十二年十二月二十六日任命) 朝鮮總督男爵齋藤實君
 (同) 年十二月二十六日任命) 臺灣總督 內田嘉吉君
 (同) 年十二月二十六日任命) 關東長官伯爵兒玉秀雄君
 (大正十三年一月二十一日任命) 法制局參事官 黑崎定三君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院總裁 水野鍊太郎君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院副總裁 松木幹一郎君
 (同) 年一月二十二日任命) 帝都復興院理事 直木倫太郎君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院理事 池田宏君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院理事 稻葉健之助君

內務省所管事務政府委員

(同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院理事 佐野利器君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院理事 太田圓三君
 (同) 年一月二十一日任命) 帝都復興院書記官 十河信二君
 (大正十三年一月二十八日任命) 內務省參事官 佐上信一君

右政府委員中內閣交迭ニ伴ヒ異動ヲ生シ大正十三年一月二十一日更ニ左ノ如ク任意セラレタリ

政府委員

內閣書記官長 小橋一太君
 拓殖事務局長 別府總太郎君
 內務省所管事務政府委員
 內務次官 井上孝哉君
 內務省警保局長 藤澤庄平君

大藏省所管事務政府委員

大藏省理財局長 富田勇太郎君

陸軍省所管事務政府委員

陸軍次官 津野一輔君

司法省所管事務政府委員

司法次官 林 賴三郎君

司法省刑事局長

山岡萬之助君

司法省行刑局長 泉二新熊君

文部省所管事務政府委員

文部次官 松浦鎮次郎君

文部省宗教局長

栗屋謙君

文部實業學務局長 武部欽一君

文部省專門學務局長

下村壽一君

農商務省所管事務政府委員

農商務次官 鶴見左吉雄君

農商務省農務局長

松村真一郎君

農食糧商局局長 川久保修吉君

農商務省畜產商局局長

三浦實生君

遞信省所管事務政府委員

遞信次官 米田奈良吉君

遞信省通信局長

田邊治通君

鐵道省所管事務政府委員

鐵道次官 岡野昇君

鐵道省工務局長

後藤佐彦君

第三 委員

本期議會ニ於テ選定シタル常任委員及特別委員左ノ如シ

常任委員

豫算委員

委員長 野田卯太郎君

理事 指田義雄君

理事 高田耘平君

理事 木下謙次郎君

理事 清瀬一郎君

理事 熊谷直太君

理事 森下龜太郎君

第一部

鶴澤總明君

伊澤平左衛門君

井上敬之助君

岩崎宗茂助君

東武君

望月小太郎君

川崎克君

第二部

熊谷直太君

中西六三郎君

改野耕三君

三土忠造君

高田耘平君

近藤達兒君

越山太刀三郎君

第三部

附錄 第三 委員

井上角五郎君 平田民之助君 長峰與一君 下岡忠治君

第四部

飯塚春太郎君 森下龜太郎君 大島實太郎君 荒川五郎君

第五部

田川大吉郎君 鈴木久次郎君 植場平君 渡邊祐策君

第六部

廣瀬鎮之君 小菅劍之助君 奧村千太郎君 宮崎友太郎君

第七部

八田宗吉君 久慈貫一君 清瀨一郎君 高山長幸君

第八部

一柳仲次郎君 淺石惠八君 磯貝浩君

宮崎三之助君 植竹龍三郎君 高橋光威君 齋藤鷲太郎君
田中定吉君 毛里保太郎君 齋藤宇一郎君補闕

第九部

小鹽八郎右衛門君 山本糸太郎君 瀧正雄君 川原茂輔君
門田新松君 鈴木富士彌君 大口喜六君

決算委員

委員長 加藤重三郎君補闕 員

理事 三善清之君 理事 高橋辰二君 理事 益谷秀次君
理事 淺賀長兵衛君 理事 土居通憲君

第一部

加藤重三郎君補闕 員 中島守利君 石川玄三君 佐々木志賀二君

第二部

井上剛一君 白井博之君 阿部武智雄君 神谷彌平君 吉川吉郎兵衛君
矢島專平君

附錄 第三委員

第三部

益谷 秀次君 成田直一郎君 佐藤 榮吉君 古林 新治君

定行 八郎君

第四部

岡 順次君 中島 照寬君 海江田準一郎君 淺賀長兵衛君

土居 通憲君

第五部

山本清三郎君 赤田 瑳一君 倉石 知藏君 菊池 良一君

木村權右衛門君

第六部

磯田彙三郎君 吉良 元夫君 神崎 勳君 粟山 博君

松井 鉄夫君

第七部

三善 清之君 高橋 辰二君 高柳淳之助君 金田平兵衛君

最上 直吉君

第八部

鈴木 隆君 久下 豐忠君 島田 俊雄君 正木 照藏君

木檜三四郎君

第九部

吉野小一郎君 小田切磐太郎君 麓 純義君 牧野 良三君

荻田 悅造君

懲罰委員

委員長 野副 重一君

理事 大道寺慶男君 理事 禰 苗代君 理事 守屋松之助君

第一部

石井 三郎君 佐野 正雄君 金澤安之助君

第二部

野副 重一君 禰 苗代君 星島 二郎君

第三部

飯島 信明君 竹上藤次郎君 藤井 啓一君

第四部 佐藤庄助君 横田千之助君 岡本幹輔君

第五部 宮澤長治君 海原清平君 守屋松之助君

第六部 岩本平藏君 山口義一君 板野友造君

第七部 大道寺慶男君 清水留三郎君 平野光雄君

第八部 柿原政一郎君 樋口典常君 横山勝太郎君

第九部 松實喜代太君 米原於菟男君 佐竹庄七君

請願委員

委員長 西村正則君
理事 市村貞造君
理事 向井倭雄君
理事 河相三郎君

理事 阿由葉勝作君
理事 土井權大君
理事 山邑太三郎君

第一部 向井倭雄君 中村喜平君 原夫次郎君 大森貞資君

第二部 山邑太三郎君 野村勘左衛門君 牧口義矩君 田川平三郎君

第三部 富永孝太郎君 出口直吉君 香川保忠君 村田虎之助君

仲田德三君補闕

第四部 石川長右衛門君 石川淳君 岡田伊太郎君 伊坂秀五郎君

第五部 西村正則君 津崎尙武君 河相三郎君 舞田壽三郎君 望月政友君 阿由葉勝作君

奥村安太郎君

第六部

長谷場敦君

水野吉太郎君

松岡俊三君

本間三郎君

友田文次郎君

第七部

市村貞造君

三枝彦太郎君

高橋金治郎君

井坂豊光君

野呂丈太郎君

第八部

高橋善五郎君

崎山克治君

島本信二君

松浦五兵衛君

村山喜一郎君

第九部

野村治三郎君

阪上貞信君

佐々木千秀君

土井權大君

鎌田三郎兵衛君

特別委員

開院式 勅語奉答文起草ノ件委員

委員長 床次竹二郎君

理事 關和知君

床次竹二郎君

小川平吉君

東武君

菅原傳君

原田十衛君

國澤新兵衛君

八木逸郎君

廣岡宇一郎君

田邊熊一君

若尾幾造君

下出民義君

大津淳一郎君

關和知君

田中善立君

川副綱隆君

押川方義君

若尾璋八君

白井哲夫君

大正十三年五月三日印刷
大正十三年五月五日發行

衆議院事務局

印刷者 渡邊爲藏
東京市京橋區日吉町十番地

印刷所 民友社
東京市京橋區日吉町十番地

昭顯報 文 錄

東京市東區日吉町十番地

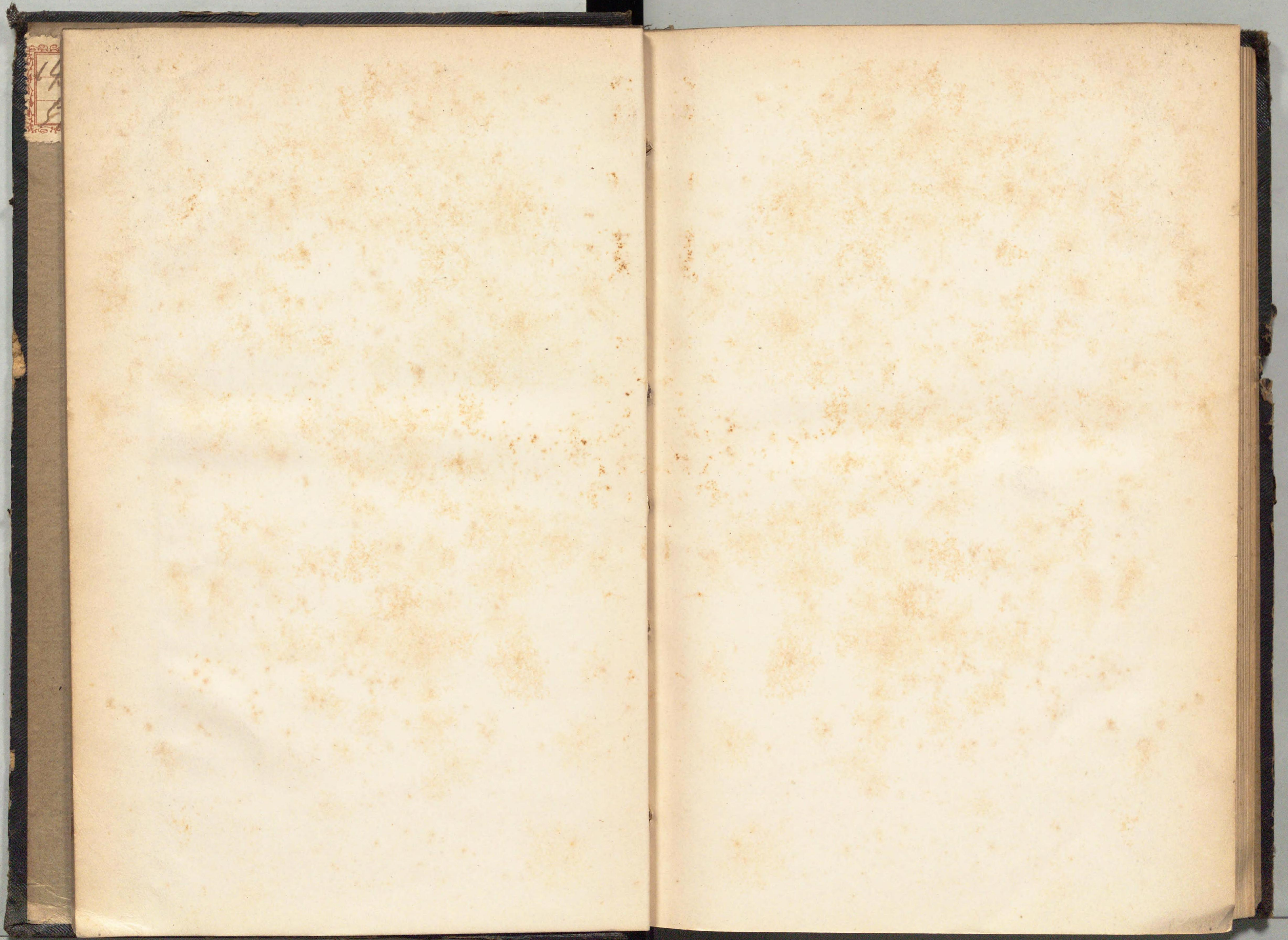
昭顯報 送 錄

東京市東區日吉町十番地

東京市東區日吉町十番地

大正十三年正月五日發行

大正十三年正月三日印刷



143
5/1

143
E1=

